

在宅就労を中心とした障害者の就労促進に係る
インターネットの活用に関する研究

1999年2月

日本障害者雇用促進協会

障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

在宅就労を中心とした障害者の就労促進に係る インターネットの活用に関する研究

1999年2月

日本障害者雇用促進協会
障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

目 次

概 要	1
序 章	2
第 1 章 在宅就労の現状と課題	4
1．障害者の在宅就労に係る現状	5
(1) 民間団体での取組み	5
(2) 行政主導の取組み	6
(3) 就労形態の 1 つとしての在宅就労の新しい展開	10
2．在宅就労の課題と今後の方向性	12
(1) 教育訓練	12
(2) 社会的インターメディアリーの必要性	13
第 2 章 在宅教育訓練の試行と今後の方向性について	15
1．障害者の在宅教育訓練の現状	15
2．一例目の試行内容	18
3．二例目の試行内容	21
4．三例目の試行内容	24
5．総 括	26
第 3 章 障害者の雇用促進のための情報提供・交換システムについて	29
1．経 緯	29
2．各プロジェクトの取組み状況	29
(1) CWF-OPEN	29
(2) 障害者の就労関係データベースの構築	30
(3) 障害者としごと	31
(4) CWF-CONSUL	33
3．今後の展望	33

第4章 CWF-CONSUL について	34
1. 経緯	34
2. 相談方法	34
3. 相談内容	35
(1) 概要	35
(2) 具体的事例の紹介	37
個人事業所で就労支援を行っているケース	37
在宅就労上のトラブルに関する事例	38
知的障害者に係る事例	40
精神障害者に係る事例	40
独立志向の事例	41
4. 総括	42
(1) メリット	42
(2) 留意点	43
第5章 結 論	45
1. インターネットを利用しての在宅就労推進の取組み	45
2. インターネットを利用しての情報提供・交換システムについて	46
文献リスト（引用・参考）	47
資 料	49

まえがき

障害者職業総合センターでは、平成 3 年の設立以来、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、我が国における職業リハビリテーション・サービス機関の中核として、職業リハビリテーションに関する調査研究をはじめとして、さまざまな業務に取り組んできています。

さて、この報告書は、当センターの雇用開発研究部門が実施した「障害者の雇用促進におけるインターネットの活用に関する研究」の結果をとりまとめたものです。

この研究においては、最近急速に進展・普及しているインターネットを利用して、障害者の就労促進に役立てていくことを目的として、障害者の在宅就労推進に係る現状と問題点の検証とインターネットの特徴を生かしての情報提供・交換システムの開発・検証を行ったものである。

なお、この研究を進めるに際しましては、いろいろな方に多大な協力を賜りました。特に、慶応義塾大学の金子郁容教授、社会福祉法人プロップステーション理事長の竹中ナミ氏、日経連労務法制部次長の西嶋美奈子氏、社会福祉法人東京コロニー・トーコロ情報処理センターの堀込真理子氏には、研究に協力いただくとともに、貴重なご助言を多々いただきました。ここで、厚く感謝申し上げます。

この報告書が、たくさんの関係者の方々に活用され、我が国における職業リハビリテーションをさらに前進させるための一助になれば幸いです。

1999 年 2 月

日本障害者雇用促進協会
障害者職業総合センター
研究主幹 後藤憲夫

執 筆 担 当

戸ヶ崎 文 泰 障害者職業総合センター
雇用開発研究部門 研究員

概 要

本研究においては、最近の普及が著しいインターネットを活用して、障害者の就労促進を図っていくという目的の下、この分野でインターネットを活用している事例の調査やその試行による検証を行った。

なお、第1章と第2章は、インターネットを利用しての在宅就労の現状と課題の検証、第3章と第4章はインターネットの特徴を利用しての情報提供・交換システムの検証を行っている。

第1章においては、障害者の在宅就労の全般的な経緯や現状とその課題について、その調査・検証を行っている。

ここでは、最近10年の在宅就労推進に係る経緯と、最近の特徴である地方自治体が支援する形での在宅就労推進の枠組み、あるいは既存の障害者就労の枠組みへの在宅就労の導入等の事例を検証し、就労前の在宅講習の必要性、企業と在宅就労（希望）者を仲介する機能の必要性を指摘している。

第2章においては、在宅就労に必要な技術習得の場として、在宅講習の必要性を筆者の行った試行を元に検証を行っている。

また、在宅就労推進の前提として、在宅講習をより一層拡大していく必要性を指摘するとともに、自学自習型やマンツーマン型といった同じ在宅講習でも、異なる2つの方法について、その検証を行っている。

そして、自学自習システムは、対象者の数を増やすことはできるが、技術の習熟度は講習受講生の志気に影響されること、マンツーマン方式は、受講生の確実な技術習得を可能にするが、講師の負担が大きいこと等の特徴を指摘している。

第3章においては、筆者が参画している CWF (Challenged Working Forum) における各種活動の報告とその有効性を検証している。

この活動では、インターネットを利用して、障害者就労関連情報（事例、助成制度等）データベースの作成、企業と在宅就労を希望する障害者をマッチングさせるための情報登録・検索システムの開発、在宅就労等障害者就労に関心がある人たちの自由な意見交換の場の設置とその運営、障害者就労に係る相談コーナーの設置を行っている。

第4章においては、上記 CWF の1つのサブプロジェクトであり、筆者が運営・管理している障害者の就労関係の相談に対応するためのメーリングリストの状況と、その有効性についての検証を行った。

特に、障害の重度化等の理由で在宅就労に向けて第一歩を踏み出そうという人たちへの的確な情報提供、あるいは問題点の論点が明確である事案に対する対応において、有効にその機能を発揮している。

また、相談内容については、在宅就労を目指す身体障害者のみならず知的障害者や精神障害（回復）者にも適用可能であることを示唆する事例もあり、今後の本格的な運用が待たれる。

序章 障害者就労の促進とインターネットの活用について

1. 論点整理

近年、急速に普及しているインターネットを障害者の就労に活用していこうという取組みには2つの観点がある。

1つはインターネットを仕事を遂行していくための便利な道具として活用していこうという動きである。この観点からいうと、インターネットは社内でのコミュニケーション手段の1つとして活用され、結果的に情報通信を利用した在宅就労やサテライトオフィスでの勤務といったいわゆるテレワークの進展につながっている。また、これらテレワークの中でも特に移動困難な障害者の就労として最も注目されているのは在宅就労であるといえる。

なお、インターネットが普及する以前から障害者がパソコンを利用することにより、仕事を遂行する可能性を増加させていたという事実が、今日の在宅就労の基礎となっていることは言うまでもない。

さらに、この障害者の在宅就労を推進していこうという動きは、NPO（Non Profit Organization）をはじめとした民間団体の主導で進行しているのが特筆すべき点であり、また、それが障害者の在宅就労に係る現状の大きな特徴になっている。

一方、もう1つの観点は、インターネットが情報収集や情報発信を容易にし、また電子メールといった新たなコミュニケーション手段が発達したことに伴い、これらの機能を利用して障害者の就労促進に役立てていこうという動きである。

これらの動きは、インターネットが社会に浸透してきた場合にそれを社会全体に有用な形で活用していこうという考え方から発せられたものといえる。いわばインターネットに社会性をもたせようという動きの1つとして考えられる。

このような活動においては、技術的な側面も含め、どういった情報をどういった形で提供あるいは交換していくのが最も有効であるという視点で様々な試行が行われている。

2. 研究の目的と方法

本研究においては、障害者の就労促進におけるインターネット利用の有効性を多角的に検証していくとのスタンスで臨んでいる。

したがって、インターネットを就労の道具として活用する在宅就労と障害者就労関連の情報提供や情報交換の方法という両者について、それぞれの問題点と今後必要な対応策を検討していくこととした。

具体的には、本調査における予備的な専門家に対するヒアリングより以下の問題点について焦点を当てることとした。

(1) 障害者の在宅就労

教育訓練

重度身体障害者を中心に移動困難な障害者においては、在宅就労に対する関心が高く、また、現に在宅就労を希望している者も多いが、これらの者に係る在宅就労に必要な技術を修得できる機会が少ないという実態がある。

したがって、これら在宅就労希望者に対する技術習得の手段として、在宅で教育訓練を受けられるいわゆる在宅講習の可能性について検証することとした。

そこで、在宅講習に先駆的に取り組んでいる民間の就労支援団体に対する調査とともに、当障害者職業総合センターの職業センターの職業講習受講生に対して模擬的な在宅講習を実施し、その問題点と有効性を検証することとした。

社会的インターメディアリー（仲介機能）

在宅就労を希望する障害者と在宅就労者を雇用しよう、あるいは在宅就労者に仕事を発注しようとする企業を仲介する機能が社会全体の中で不足しているという実態がある。

また、現在の在宅就労は請負契約の下で行われる場合が多いが、障害者特に重度障害者の場合、この請負契約の下で仕事を継続していくためには、体調を勘案しての納期の管理等当該就労期間中に係る企業との調整が必要な場合が多い。すなわち、就労前のみならず就労開始後のフォローの機能も重要となってくる。

そこで、本研究では就労前の仲介機能を慶応義塾大学の金子郁容教授が中心となっている VCOM プロジェクト（参考資料参照）に筆者が参加しつつ検証した。また、就労後の仲介機能については、最近活発になってきた在宅就労支援団体等に対する調査より、その必要な機能と今後の対応の必要性について検証した。

(2) 情報提供と情報交換のシステム

上記 VCOM での活動は当初在宅就労希望者と在宅就労者と契約したいと考えている企業を結びつけていくために、インターネットを利用しての情報提供や情報交換のシステム作りを念頭に置いていた。したがって、ここでの活動は当然障害者の在宅就労を促進するために有効なシステム作りという側面を持っている。

しかし、これらシステム作成とその試行の中で、当該システムは重度の身体障害者のみならず知的障害者や精神障害回復者にも有効に機能しうるとの判断の下、その汎用性を高めつつある。

したがって、本報告書においては、これらインターネットを利用しての就労促進とシステム作りを、その対象を在宅就労に限定することのないものとして検証していくこととした。

第1章 在宅就労の現状と課題

1. 障害者の在宅就労に係る経緯

障害者の在宅就労については、1980年代よりその有効性に注目し、いくつかの調査・研究が行われてきた。しかし、実際は一般のテレワーク（情報通信を活用したサテライトオフィス勤務、在宅勤務…「テレワーク推進会議」より）が家庭事情で離職せざるを得ない女性の有効活用といった視点で注目されたのに対し、障害者の在宅就労が現実性のあるものと一般の認知を得るのは1990年代に入ってきてからといえる。

そして、1990年代の今日までの障害者の在宅就労に係る基本的な流れや活動の基礎となる3つの出来事が1989年から1991年に生じている。

まず1つは1980年代から在宅就労に先駆的に取り組んでいた社会福祉法人の東京コロニーにおいて、東京都からの補助事業として重度身体障害者在宅パソコン講習事業が開始し、当該2年の講習修了した者であって、企業就職しなかった者が1991年にONE-STEP企画を組織したことである。

このONE-STEP企画においては、講習修了後も講習で得たコンピューター技術を相互に協力して生かしていくという目的で、会の規約を整え活動している。ここでの活動は身体障害者に対するパソコン講座の開催から、作業所でのパソコン指導、養護学校でのソフト開発を行っている。また、今後はメンバー相互の協力の下企業から発注された仕事を遂行していけるよう現在体制を整備している。

また、東京コロニーにおいて在宅講習、在宅就労に取り組んでいる部署はトーコロ情報処理センターであり、ここでは東京都の補助金に加え民間企業からの援助も受け機関誌の発行や就職を希望する講習生については、個別の企業にアプローチしたり、また講習カリキュラムの中に企業実習を取り入れるようにしており、今後は労働省より有料職業紹介事業の認可を得て講習生と企業との就職のマッチングを行っていくとするなど、現在でも在宅就労推進の中心的な組織となっている。

次に2つ目の出来事は1990年（正式には1991年）のプロップステーションの発足である。

このプロップステーションは、障害者の真の自立のためには就労することにより税金を納められるだけの収入を得ていく必要があるとの考えの下、その実現手段としてコンピューターを活用していくとして発足したNPOであった。

ここでは当初、プロップステーションのメンバーへの個別の学習、企業からの仕事の受注とメンバー間への配分、対面式のパソコン講習の実施といった形で組織が運営されていたが、このプロップステーションが本格的に在宅就労に取り組めるようになったのは、1996年から「在宅スキルアップセミナー」を開始したことによると考えられる。

この「在宅スキルアップセミナー」は市場に通用するようなデータベース作成技術の修得を目指すも

のであり、この講習修了生が企業からの仕事の受注に対応できるような形となっていた。

また、その後も翻訳コースやデータベース作成技術修得の基礎コースを開始し、その対象者を拡大し、1998年には社会福祉法人となった。

最後3つ目の出来事としては1991年4月に「雇用保険並びに身体障害者雇用率制度の在宅勤務者に対する適用上の指針」が労働省より示され、限定的にはあるが在宅就労者にも雇用保険の適用が行えることが明示され、またそれに伴い雇用率の適用も可能である旨が示されたことである。

この東京コロニーでの重度身体障害者在宅パソコン講習事業の開始と講習修了生によるONE-STEP企画の組織化、プロップステーションの発足、在宅就労者の雇用率の適用可能性の明示の3つが今日の在宅就労推進の基礎となっている。

また、ここで重要な点は障害者の在宅就労推進については、民間団体が中心的な存在となっていることと、これらの民間団体に対して、インターネットの普及を目指す研究者や企業がボランティアで協力するという在宅就労推進の枠組みが形成されている点である。

そして、これらの流れの延長線上に現在の障害者の在宅就労推進に係る各種の取組みがあるといえる。

1. 障害者の在宅就労に係る現状

日本障害者雇用促進協会が東京コロニーに委託した1994年の調査(在宅勤務方式による重度障害者の雇用の促進に関する調査研究)では、6419の調査対象の企業・団体のうち24社で障害者の在宅就労(事業所と労働者の間に雇用契約が結ばれている場合に限る)が実施され、51名の障害者が在宅で雇用されていた。

これを、1985年度に実施された同様の電話によるアンケート調査(重度障害者の在宅就労の実態と問題点)と比較してみると、この時点では、調査対象6671に対して在宅の障害者の雇用はほとんど得られていない。もちろん調査対象が相違しているので単純には比較できないが、雇用ベースでみても、ここ10年で増加傾向にあるといえるであろう。

また、請負で在宅就労しているものが増加していると考えられるので、全体として障害者の在宅就労者は増加傾向にあるといえる。

したがって、ここではこの増加傾向にある在宅就労を支援していこうという新しい枠組みについてみてみることにする。

(1) 民間団体での取組み

現在の在宅就労を推進しているのは先述のように民間団体が中心であるが、先の東京コロニーやプロップステーションに影響を受けいくつかの就労支援団体が活動を始めている。

その中でも東京及び大阪(プロップステーション)以外の場所で活動を始めたサイバード(CyBird)が注目される。

このサイバードは日本筋ジストロフィー協会宮城支部長が自分の子供の学校で受けたコンピューター教育を社会でも活用できないかと考え、同様の立場の東北大学助教授とともに、1996年に宮城県西多賀養護学校（仙台市）の協力でパソコン講習を開催したことが、その活動の端緒となった。

そして、これを契機に、仙台市内の異業種交流グループの「宮城情報交流グループ」が関心を持ち、仕事を在宅の重度身体障害者に発注してくれることとなった。

そこで、これら仕事の受注に対応するべく体制を整え1996年10月にサイバードが発足した。このサイバードにおいては、サイバードに参加する者はメーリングリストに加入してもらい、受注した仕事により事務局で、それぞれの分担を決定しメーリングリストを通じて仕事を割り振っている。

また、平成10年度には宮城県庁より障害者の在宅勤務の可能性を検証するプロジェクトを開始することとなっている。

(2) 行政主導の取組み

高知県

また、このような民間団体の活動に行政が注目し、行政が主体となり、あるいは行政が間接的にバックアップしながら在宅就労を推進していこうという動きが顕著となりつつある。

その1つは高知県の場合である。この高知県は、2001年度を目標年度として高知県情報化計画を策定した。

この計画は、高知県全土に基幹となる情報通信ネットワークである高知県情報スーパーハイウェイを整備し、これらの社会インフラを利用して住民の社会生活の向上（保健・医療・福祉サービスの提供、教育改革、県民サービスの向上）、地域産業の活性化（新規産業の創出、既存産業の競争力の強化）、新しい田舎づくりへの挑戦（過疎地域等の地域の新しいモデルの実現、広域的な交流の促進、アジア太平洋地域との国際交流）といった4つの総合目標を掲げ、27の実験プロジェクトを行っている。

そして、地域産業の活性化を目的としたプロジェクトの1つとしてオフィスアルカディア・テレワーク実験が行われている。

このプロジェクトにおいては、21世紀に向け高知県の産業を活性化・高度化させるため、県立の高知工科大学と連携しつつ南国市にある南国オフィスパークに情報関連企業や研究開発型企業の誘致・育成につなげる技術や情報システムについての実験・研究に取り組んでいる。

これらの実験や研究はそもそも地理的にハンディキャップをもつ地域の人材活用との視点をもつため、その対象者は一般の市民であるが、障害者に係る在宅就労についても、これらの実験の中で取り扱われている。

まず、テレワーク実験においては、ある企業が中心となり運営されている「マイセルフネットワーク」というプロジェクトがある。

ここでは、10名強の障害者（四肢障害、聴覚障害、視覚障害、精神障害）がネットワークのメンバー

として加入して、4名のサポーターの下、在宅就労に向けて1997年度には基本OSの操作、ブラウザ操作、電子メール操作、ワープロ機能の修得、ホームページ作成技術の修得を在宅で行うことを目指して運営されていた。

結果的には、障害の種類がまちまちであったこと等の理由により修得の程度は各人で差が出たり、電子メール等を利用したメンバー間のコミュニケーションが円滑にできなかった部分もあるようであるが、今後の参考となる取組みであったといえる。

また、もう1つの取組みとしてはバーチャル人材派遣事業がある。この事業は実質的にNTT系の企業A社が中心となって取り組んでいる。

ただし、現段階では労働者派遣事業の許可を受けていないため、この事業運営における雇用関係は成立しておらず請負契約のみであるが、事業の運営形態は労働者派遣事業に沿った形で行われている。すなわち、A社に登録した在宅就労者（健常者も含む12名）に対してA社が受注した仕事を割り振るという形である。

そして、平成10年度に、これら12名の登録者に電話回線（ISDN）を使ったテレビ会議システムを利用してのワープロによる文書作成や企画書の作成、データ入力等の作業を実際に行い、就業管理の方法等が検討された。

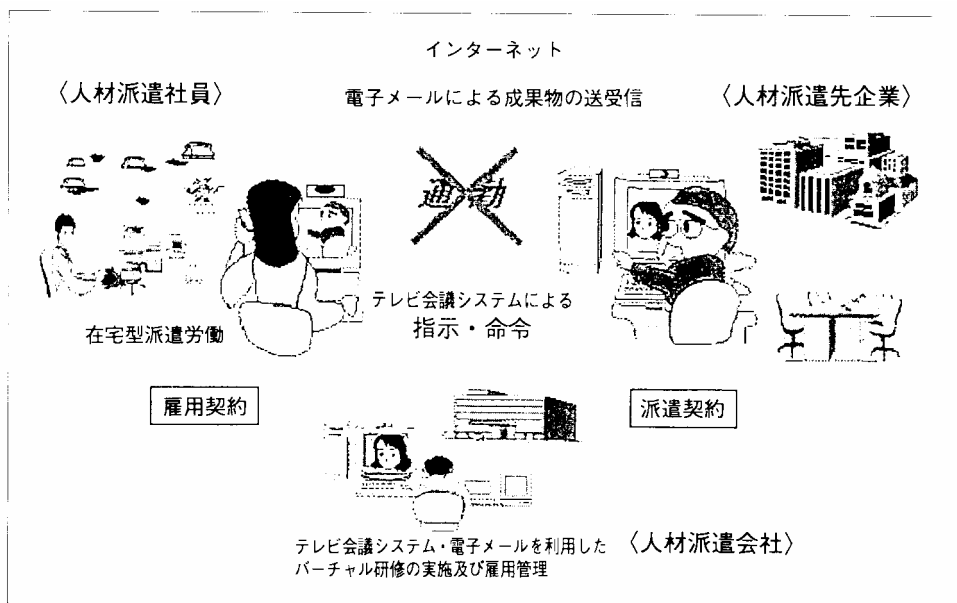
具体的には、就業準備として、就業前にテレビ会議システムへの接続、作業指示、作業開始後の質問とそれへの対応、作業終了時の作業内容の報告、勤務時間の確認等その管理が行われていた。

また、ここで重要なことは、単にA社が受注した仕事を在宅就労者に割り振るというだけでは、他の在宅就労支援団体と同様な形態でしかないが、このA社の場合、このA社と在宅就労者との関係を将来的には雇用関係にしていこうという点である。

ただし、通常の労働者派遣事業と異なる点として、派遣先の就業場所が常に自宅となることが問題となってくるとされる。したがって、その点に係る現行の労働者派遣法との整合性を如何に保っていくかが重要となってくるであろう。

しかし、このA社と在宅就労者との雇用関係を推進しているのが、高知県すなわち行政サイドであるというのがこの事業の大きな特徴となっている。行政サイドとしては、今後の人材の有効活用といった点からいうと、障害者や高齢者や女性の就労形態として安定した雇用関係を目指していくのは合理的な判断であるといえる。

さらに、この実験においては、在宅就労者をテレビ会議システムで管理していく方法が試行されており、通常の雇用管理と同様の管理が期待される場所である。



(高知県ホームページ (<http://www.pref.kochi.jp/>) より)

図1 パーチャル人材派遣事業のイメージ図

三重県

三重県においては、先述のプロップステーションの活動に刺激を受け、その活動を行政で代替するよう、その事業を展開していかようとしている。

すなわち、プロップステーションの活動は大別して在宅就労希望者への技術付与のために行う教育訓練とこれら教育訓練を修了した者への仕事の受注とその分配という2つの機能を持つと考えられるが、これを行政が直接的に支援していかようというものである。

そこで、障害者の職業訓練に興味を持っていた三重県の商工振興課能力開発室は、在宅就労に必要な訓練システムを開発するとともに、当該訓練を受講した在宅就労を希望する障害者に対して、仕事を発注する企業との仲介を行う障害者の在宅就労支援組織を育成することとした。

この事業は、平成10年度においては、学識者、企業、障害者、関係行政から委員を任命した「障害者在宅勤務支援実施検討委員会」を開催し、障害者が在宅勤務により就労可能となる条件について検討することとしている。

したがって、この委員会の検討結果に基づき、テスト事業を行うこととなっているが、中間段階の検討内容からいうと、在宅就労に必要な職業訓練システムの開発については、三重県が第三セクター方式で設立されたソフトウェア開発会社に委託して行うこととされている。

また、在宅就労を希望する障害者と仕事を発注する企業との仲介等を行う障害者在宅勤務支援組織の設立に関しては、専任職員の人件費の補助やこの組織で使用するパソコン等の貸与、インターネット等の利用に係る通信経費の補助等を行うことが考慮されている。

なお、この障害者在宅勤務支援組織においては、仕事の募集等に関する情報を掲載したホームページの開設とその運営、在宅勤務のための職業訓練システムの提供とその運営、在宅勤務のための導入に係る相談、支援、さらに仕事の受発注者間の調整等を行うよう考えられている。すなわち、仕事を発注する企業に対しては仕事の募集、情報提供を行い、かつ業務遂行に係る相談に対応する。また、在宅就労を希望する障害者に対しては、在宅就労に関する相談に対応したり、在宅就労に必要な職業訓練の受講を勧奨し、最終的には仕事の発注、分配を行っていかうというものである。

この事業の注目すべき点は、今まで民間のNPOが中心であった在宅就労支援を行政が主体となって設立していかうという点である。なぜなら、これらの障害者の在宅就労支援組織はNPOが中心であるということもあり財政的に逼迫した状態で、かつ専任のスタッフを配置できない組織もあるという現状に対して、行政としてどういった支援、援助が可能なのかを示す1つのテストケースとなると考えられるからである。

また、この事業は能力開発の主管課が担当しているため、能力開発から在宅就労へといった一連の流れを構成することとなっており、能力開発の必要性を示す好機となると考えられる。

岐阜県

三重県や高知県のように直接的な形ではないが、岐阜県においても県の支援を受けながら活動している団体がある。

それは福祉メディアステーションといい、これは平成8年4月に財団法人岐阜県身体障害者福祉協会等が設立した機構で、岐阜県及び財団法人ソフトピアジャパンの支援を受け、アクセシビリティ機器の展示、コンピューターの入力支援機器等に関する相談、アドバイス等を行っている。

なお、このソフトピアジャパンとは、平成6年に岐阜県の高度情報化の拠点となるべく設立された組織であり、福祉メディアステーションもその敷地内に事務所を置いている。そして、このソフトピアジャパンにおいては、産業、地域、生活の情報化を推進するため情報産業の集積を図っており、産・官・学の国際的な連携が行われている。

そして、この福祉メディアステーションは、平成10年10月よりバーチャルメディア工房事業として在宅就労に取り組むこととなった。

具体的には、福祉メディアステーションにおいて、この事業の参加希望者を募集し、応募者の中から6名の障害者の登録を行った。なお、この6名の障害者の障害種類は肢体不自由が中心で弱視が1名といった構成となっている。

また、このバーチャルメディア工房は1つの任意団体として会則を決め、先の6名の登録者に3名の非常勤職員が加入して活動をサポートすることとなっている。したがって、福祉メディアステーションは企業に対する営業活動や事業の提案を行い、実質的には工房登録者の教育、指導を行うこととなっているが、受注した仕事に係る役割分担や報酬分配、会計処理は工房自体が行うこととしている。

バーチャルメディア工房事業概略図

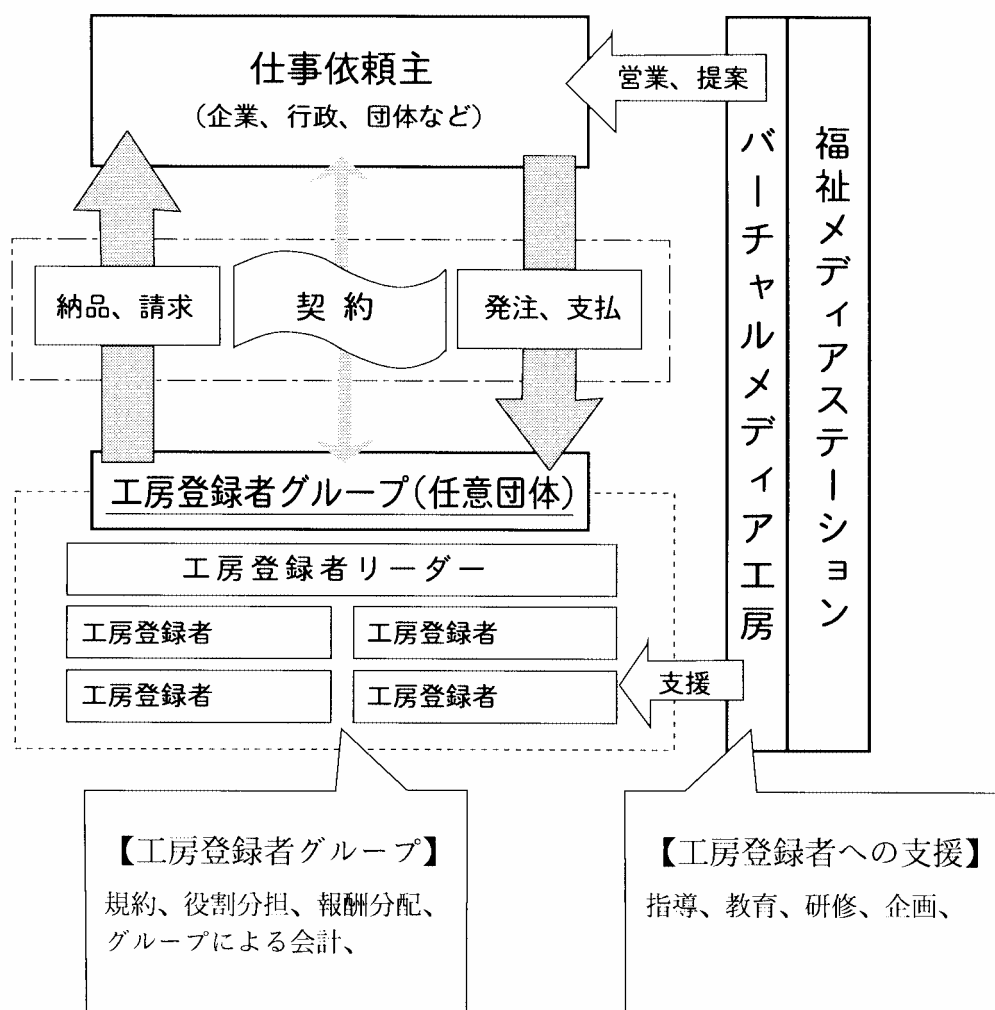


図2 バーチャルメディア工房事業概略図

このバーチャルメディア工房は、活動を開始したばかりであるが、既にノーマライゼーションに係る雑誌の編集、発売等を計画するなど、いくつかの仕事の受注に向け活動しているところである。

(3) 就労形態の1つとしての在宅就労の新しい展開

先述の社会福祉法人東京コロニーでの在宅就労推進していく活動の中から、従来からの障害者就労や雇用の方として取り扱われていた施設等に対して在宅就労を導入していこうという動きが起こりつつある。

これは、障害者の就労を推進するにあたって「在宅就労」はあくまで就労形態の1つであり、通勤・通所可能な場合はオフィス等での就労・雇用で対応すべきであるが、実質的に通勤・通所を継続してい

くことが困難な場合は、在宅形態での就労を導入していくという、あくまで就労・勤務形態に係る選択肢の1つとして柔軟に在宅就労に対応していこうという考え方によるものである。

したがって、今後在宅就労を推進していくにあたって、その浸透・普及を図っていく上での重要な示唆を与えるものであると考える。

授産施設における在宅就労への取組み

東京コロニーの施設の1つである身体障害者授産施設のコロニー東村山において施設通所の授産作業者の枠を利用して在宅就労の試行が行われている。

この施設においては、印刷物の企画デザイン、書籍編集制作から CD-ROM 制作、ホームページ制作やデータ入力まで印刷物全般の企画から製本仕上げ、納品までを施設内の一貫作業で行っている。その結果売上高は年間8億円を越え、そのうちの補助金等の公的資金は17%~18%という成績を上げている。

しかしながら、最近のコンピューター環境の進展により、将来的には印刷だけで事業を継続していくことに困難が予想された。そこで、新たな事業展開の1つとして企業に対してコンピューター・ネットワーク環境の企画・提案が行えるようにしたいと考えるに至った。そして、その目的のため施設内のネットワーク環境の整備とともに、この新たな事業に対応できるものを在宅で作業できるようにその環境を整えた。

そして、同じ東京コロニー内の施設であるトーコロ情報処理センターで2年の在宅講習を修了した障害者1名を在宅就労を中心とした形(月2回通所)で受け入れることとなった。

この障害者は、コロニー東村山印刷所の営業部に所属し、システムサポートチームの一員として、主にデジタルメディアを扱うこととなっている。また、その業務内容はホームページのメンテナンスや施設内の売上勘定システムや見積システムといったデータベースの作成等である。

また、作業内容等の連絡は基本的に電子メールで対応し、データ量の多いものについては MO を宅配便で受け渡ししている。さらに、作業効率を考え、この在宅作業者の自宅と施設間は ISDN 回線を引いている。

なお、この在宅での作業は、平成10年6月より開始したばかりであり、今後どういった業務を継続的にやっていくか明確でないところもあり、かつリアルタイムでの電子会議等系統的に整備しなければならない部分もあるが、今後施設に通所できないような重度身体障害者や遠方の利用希望者に対するサービスとして今後の展開が期待されるところである。

特例子会社での在宅雇用に向けての取組み

情報通信関連企業の B 社においては、従来より社会貢献活動に熱心に取り組んでいたところであるが、平成10年に障害者を完全在宅の形で4名雇用することとなった。そして、今後も在宅での障害者雇

用を図り特例子会社の設立を念頭に置いているところである。

そもそも、その発端は東京コロニーに B 社の関係会社からショッピング端末用のコンテンツ作成依頼があり、それにトーコロ情報処理センターの職業講習修了生が完全在宅の就労で対応したことに始まる。

この作業に際しては、東京コロニーの職員 2 名が、当初の段取りと受発注に係る事務と具体的なアドバイスやパーツの作成をサポートし、在宅就労者はコンテンツ作成（HTML 作成）と納品を行った。

そして、この作業の良好な進行と結果を見た B 社が、自社のホームページのメンテナンス作業を、この在宅就労者に依頼し、その結果から複数名の障害者の雇用を行うこととなった。

また、在宅雇用者用の労働契約書の作成、在宅勤務マニュアルの作成といった人事労務に関する問題等をクリアして、平成 10 年 6 月に 3 名、10 月に 1 名の障害者を在宅で雇用することとなった。

現段階では、これらの障害者は、社内のホームページのメンテナンスをしつつ、必要な技術習得を行っているところであるが、今後、電子辞書の作成等を行うとともに、情報機器に係るアクセスビリティについても提案してもらおうつもりとのことである。

なお、ここで注目すべき点は、この在宅就労者の雇用に当たって、これらの社員のコーディネイト要員として 1 名の社員を専属で配置した点である。このコーディネイト要員の社員は仕事の営業や受注といった対外的な業務と在宅雇用者の管理といった労務・雇用管理を行うこととなった。すなわち、会社内部でのインターメディアリーの機能を果たす専任の社員が配置されたことになった。

今後在宅雇用を推進していくに当たっては、社内でのコミュニケーションや体調面の管理等の「在宅」であるが故の問題が生じる可能性も考えられる。したがって、社内のコーディネイト要員の必要性が明確になってくるものと予想される。そういった意味で、このような企業の先行事例が示す意義は大きいと考えられる。

さらに、B 社においては、現在社会貢献室に雇用される形の在宅就労者を、将来的には特例子会社での雇用に進めていきたいとの意図を持っており、今後増加が予想される特例子会社の 1 つの可能性を示す良い機会となることが期待できる。

2. 在宅就労の課題と今後の方向性

先述の序章で提起した教育訓練と社会的インターメディアリーの必要性の観点から本章の最近の在宅就労に係る取組みを検証してみることとする。

(1) 教育訓練

プロップステーション、東京コロニーともに障害者の在宅就労が円滑に進行するようになったのは、在宅就労に必要な技術付与のための在宅講習を実施したことが大きな要因となっている。

一方、最近の障害者の在宅就労推進に係る傾向としては、当初から在宅で就労する、すなわち教育訓

練部分がないまま在宅就労を実施しようという傾向が顕著である。

特に、移動困難な重度の身体障害者がインターネットを利用して在宅就労することにより、社会参加していくという場面は、社会的なインパクトも大きく、そこだけがクローズアップされるという傾向も否めない。また、行政主導で障害者の在宅就労を推進している場合も三重県以外は、その主管課が労働行政以外の部署が受け持っている場合が多く、かつ予算等との関連で性急に結果を求める傾向がある。

しかし、現実には在宅就労を希望する障害者が市場に通用する程度の技術を修得しているケースは少ないのが現実である。したがって、今後の活動が、仕事を発注した、あるいは雇用しようとしている企業ニーズに合わない場合は、その在宅就労推進に向けての活動自体が頓挫するという事態も考えられる。

そういった意味から言って、企業も含め、盛り上がりつつある昨今の在宅就労を、より進展させていくためには、これら在宅就労希望者への教育訓練機会の付与が不可欠であると考えられる。

そこで、次章において、さらにこの点を検証していくこととする。

(2) 社会的インターミディアリーの必要性

企業と在宅就労を希望する障害者との間を仲介するという機能については、大きく2つに分類することができる。

1つは在宅就労者を雇用しようという企業あるいは在宅就労者に仕事を発注しようという企業と在宅就労を希望する障害者をマッチングしていくために必要な機能である。これについては、第3章で検討することとする。

そして、もう1つの機能として在宅就労後の仲介機能である。

現状では、在宅就労者と企業との関係は請負関係が多いのが実態である。これは在宅就労には折衝等の対人コミュニケーションが少ない業務、すなわち完結した形の業務が向いていると一般的に考えられていること、企業側としても在宅就労者を当初から雇用するというよりは、請負的な単発の仕事を発注する方が、業務のアウトソーシング化といった最近の企業行動にマッチしていること、あるいは障害者自身も雇用という拘束力のある契約よりも、体調等により仕事の調整ができる請負的な仕事を志向する者があること等の理由によると考えられる。

そして、このような請負契約の場合は、受発注に係る事務や納期等納品に係る折衝等を本来の仕事の遂行に加えて受注した本人が行わなければならない。

こういった現実の下では、仕事を遂行していく障害者と企業の間であって、双方のニーズの調整を行っていく機能の必要性が高くなっているのが実情である。現に東京コロニーが在宅講習修了生で組織するONE-STEP 企画と企業の間で、その役割を果たしているし、プロップステーションについても同様である。

そこで、このインターミディアリー（仲介）組織が有効に機能していくために重要と考えられる点について検討してみる。

まず、このインターミディアリーの機能として考えられるのは、企業に対しては報酬、完成度、納

期の交渉が考えられる。また、一度仲介組織が受注する形をとっている場合は、企業との契約関係の事務を行う必要がある。一方、在宅就労者に対しては、作業の進行管理、就労環境（就労時間、通信ネットワーク環境等）の管理、体調のチェック等が考えられる。さらに企業と在宅就労者の意志疎通がうまくいかないこと等によりトラブルが生じた場合には、適宜対処しなければならない。

そして、このような機能を円滑に果たしていくためには、第一に企業のやり方、ニーズを的確に把握していなければならない。一般的に言って、これらの就労支援団体は障害者の事情には専門知識を有するが、企業の立場を理解していないケースがあり、いわゆる「企業の論理」に対する一定の理解は不可欠であるといえる。

次に、企業が信頼して仕事を発注してくれるよう、仲介組織は努めて中立の立場を保つべきである。

当然、このような機能を果たす組織は、障害者からの信頼を得て活動しているが、企業との調整を行う上では、極力客観的な判断を行う姿勢を持つ必要があると考える。特に障害者の場合、体調面の配慮が必要であることや入力に不自由があること等の理由により、作業結果の納期を通常よりも多めに確保しておく必要が生じることもある。

そのような場合は、やはり企業の信頼を得ておく必要があるし、それは様々な場面での中立・公平な立場であるが故に企業の納得を得ることができると考えられる。

そして最後に、障害者に対するカウンセリング機能を持つ必要性が挙げられる。

在宅就労の場合、中途障害者以外のものは、就労経験が少ない場合が多い。そういった各障害者の不安を取り除き、かつ個々人の状況に合わせて結果が出せるよう導いていくためには、カウンセリング機能が不可欠である。特に、企業との関係で障害者に負担となるようなことを依頼しなければならない場合も考えられ、障害者が自由に相談できるような環境を障害者と仲介組織の間に保っていく必要があるであろう。

なお、社会的インターメディアリーとなる組織に必要とされる機能というわけではないが、今後これらの組織に必要とされるのは、その基盤の強化といえる。

先のプロップステーションも、NPO としての任意団体から平成 10 年に社会福祉法人となったが、今後いわゆる NPO 法の施行に伴い、NPO も法人格が認められ、契約主体としてその存在が社会的に認知されるにいたっているが、やはり財政的な安定、専任スタッフの確保を図っていく必要がある。

一方、このような活動は直接的に営利を目的とする組織でないため、自助努力にも限界があるのも事実である。

そこで、これらの組織に対する公的な支援、助成の在り方について今後の検討が待たれる。

第2章 在宅教育訓練の試行と今後の方向性について

1. 障害者の在宅教育訓練の現状

この分野においても、先の東京コロニーが先駆的な取り組みを行っている。そもそもこの在宅講習の契機は、1982年から障害者のためのプログラマー養成講習を実施していたが、その受講生が、障害の重度化等の理由により通えなくなることへの対応として考えられたものである。

そこで、1986年にパソコン通信を利用してのコンピューター教育を試行的に実施し、その結果が良好であることから、1989年に東京都の補助事業としての東京都重度身体障害者在宅パソコン講習事業が開始されることとなった。

この東京都重度身体障害者在宅パソコン講習は、受講人数は5名程度で、応募者多数の場合は、適性検査等の結果により選抜している。

なお、講習を受講している受講生の約9割は、1級の重度身体障害者となっている。

また、講習期間は2年間（1日4～6時間で年間950時間程度）で、1年目は情報処理技術者試験2種共通テキスト等を利用して、コンピューターの基礎知識を修得することを目的として実施される。そして、2年目はコンピューターを将来的に仕事を遂行していく上での道具として取り扱っていこうという人達はアプリケーションソフトコースに、プログラマーを志向している人達はプログラマーコースにと2つに分かれて学習する。

したがって、アプリケーションソフトコースでは、ワープロ、表計算、データベース等各種基本ソフトの修得、データベース作成ソフトを利用した開発、DTP、HTML等アプリケーションソフトの修得を行い、最終的にシステムアドミニストレータ初級程度の専門知識を得ることを目標としている。一方、プログラマーコースではプログラミングに必要なC言語やVisual Basic言語等の修得、効果的なテスト項目の作成、デバックの方法の修得等が行われ、最終的には情報処理試験2種程度の専門知識を得ることを目標としている。

この2つのコースは、講習生本人の希望を聞いた上で、適性等を勘案して選別されることとなっている。

なお、講習方法は、パソコン通信を利用し、学習報告や質疑応答を行うこととされているが、月2回程度（1年目の当初4ヶ月間は週1回）は、講師が巡回して指導を行い進捗状況のチェック等講習のフォローを行っている。

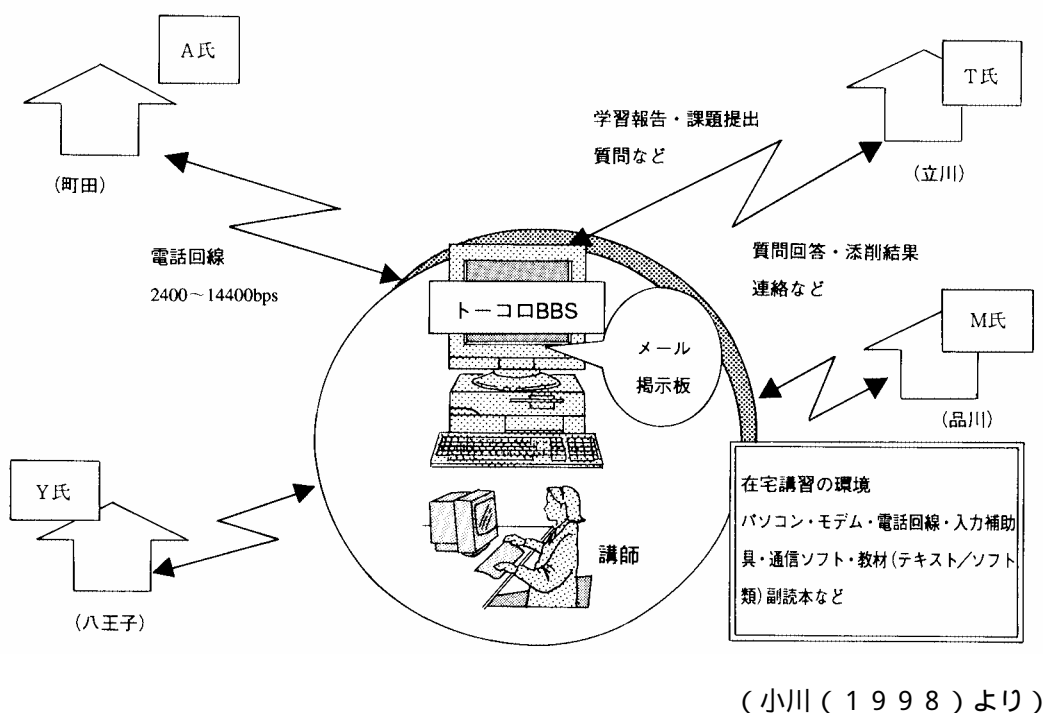


図3 トークロ情報処理センターの在宅講習システムの概要

次にプロップステーションであるが、ここでも当初は、対面式での Windows95 と Mac の基本操作修得のための講習を実施していた。

そして、野村総研とプロップステーションとの共同プロジェクトであるリモートワーキングの実験で、在宅教育訓練の必要性を痛感し、1996年8月より、基礎技術を持つ障害者を対象に電子メールを利用した「在宅スキルアップセミナー」を開始することとなった。

この在宅スキルアップセミナーは、当初1コースのみで、データベース作成ソフトである Access の基礎技術の習得、VBA の基礎から応用までの学習で、プロップステーションが受注した Access によるシステム構築の作業に参画できる設計技術の習得を図っていた。

それが、1997年9月からは、「翻訳者養成コース」も開始されることとなり、この講習終了後には、ある企業の海外から送付されるニュースリリースの翻訳を受注することとなっている。

なお、この2つの講習の受講人数は数名から10名程度となっており、講習期間は、ともに6ヶ月と比較的短期間となっている。

さらに、この講習は有料となっており、月8000円の受講料に、機関誌購読料等として年間8000円を徴収している。この受講料は実質実費弁償分にも見合わない金額であるが、受講生の志気を高めるため徴収しているとのことである。

また、この両方の講習は、この講習で市場に通用するだけの技術を習得させようとするもので、その内容も高度であるし、その進行もかなり厳格に運営されている。

現に、両講習とも6ヶ月の講習期間中に中間の実力診断があり、この時点で一定の実力に達していない者は、講習を終了することとなっている。

したがって、第1期のデータベースコース修了者6名のうち、3名が企業に採用され、うち2名が在宅就労を行っている。また、残りの3名も在宅でプロップステーションの受注した仕事を分担しながら遂行している。

また、内容的にも、また進行管理においても厳格に運営されているという特徴以外にも、もう1つ大きな特徴を持っている。それは、講習修了生が、次回の講習の講師としてボランティアで協力していくという体制をとっていることである。

この方法は、財政的に余裕がない組織が在宅教育訓練を行う場合の良い参考事例になると考えられる。

さらに、1998年からは、先のデータベースコースの基礎講習も開始された。これは、基本的に自学自習形式で運営されている。したがって、Accessの基本操作習得のための共通テキストを利用して、質問がある場合に電子メールで問い合わせをし、これにデータベースコースの講師陣が答えるという形で運営されている。

なお、この基礎講習については、筆者が試行した在宅講習でも、その実施に協力して実施したところであるため、その点については、後述することとする。

このように先駆的な民間団体の取組みに対して、日本障害者雇用促進協会の国立職業リハビリテーションセンターにおいても、1995年度より「移動困難な重度障害者に対するコンピューターネットワークを利用した訓練に関する研究」を実施し、視覚障害者と肢体不自由者（車椅子利用）に遠隔訓練の可能性を検討している。

その結果、視覚障害者についても、肢体不自由者についても、コンピューターネットワークを利用した遠隔訓練が有効であるとの結論が得られている。

具体的には、視覚障害者については、教材と電子会議システム及び画面読み上げソフトを使用することにより、音声を主体とした遠隔での個別指導が可能であり、また、ソフトの監視機能及び遠隔操作機能により、指導員が遠隔地から対応することができるとの結論を得ている。また、視覚障害者の場合と試行方法は異なるが、肢体不自由者についても同様の結論を得て、さらにテレビ会議システムの小型カメラの映像による親近感の醸成、電子メールによる指導の効率化等の確認が行われている。

このように、先行事例では、実際に在宅講習を実施し、一定の効果を上げているが、これを広く一般的なものとしていくために必要な環境整備は何かという視点で、本研究でも模擬的な在宅講習場を整備し、以下の3例の試行を行った。

2. 一例目の試行内容

(1) 経緯

筆者が所属する日本障害者雇用促進協会の障害者職業総合センター（千葉県、以下「総合センター」という。）においては、1997年3月に内部のイントラネットが構築され、インターネットに接続可能な状況となった。

そこで、この環境を利用して、外部の講師（東京都在住）が当センターの職業講習を受講している職業講習受講生に対して、ホームページ作成講習を行うこととした。この外部講師は、車椅子利用の下肢障害者で、自らホームページ作成等の仕事を自宅で行っており、市場のニーズ等をよく把握している人であった。

なお、このホームページ作成講習の受講生は、イラスト技術に優れた下肢障害者で、車椅子を利用することはなかったが、長期の病気療養のため体力は低下していた。

また、当該受講者に係る職業講習の期間は3ヶ月であったが、講習のカリキュラムとの都合で、ホームページ作成に係る講習は最後の3週間で行うこととした。

したがって、ホームページ作成講習を円滑に進めるため、事前に必要な基礎的なワープロ機能やイラスト作成ソフトの習得するとともに、HTMLの基礎を修得しておくこととした。

(2) 試行方法

講師が公開しているホームページに1回分の講習用テキストの掲示

受講生が、課題を職業講習室のパソコンにダウンロード（職業講習室のパソコンも総合センター内のネットワーク化に伴いインターネットが利用できる環境が整備された。）

受講生による課題の遂行（課題遂行中の質疑応答は電子メールにより行う。）

受講生は課題が終了した場合は、当総合センターの外部サーバに作成している講習用ホームページにファイル転送を行う。（総合センターのネットワークシステムには外部のインターネットとの間にファイアウォールを設置している。）

講師は、当総合センターの講習用ホームページから遂行された課題をダウンロード、必要なチェックを行う。

このように、絵や図といった情報量の多いファイルはホームページからホームページへのやりとりで、文書のみといった情報量が少ない場合は電子メールで情報交換を行った。

(3) 講習内容

講習内容は、ホームページ作成に必要なHTMLという言葉を使って課題となる文字や図等を作成し、

インターネット上で閲覧可能な状態を構築していくこととなる。

なお、ホームページ作成の在宅講習に向く市販テキストがないため、本講習に係る課題等のテキストは、講師自らが作成した。

詳細は以下のとおりである。

表 1 ホームページ作成講習の課題

HTML で文書の作成	課題 1 Simple Text を開いて指定された HTML を書く。 文中には講師への手紙を書く。できればテキスト色や背景色の設定も行う。
文章を表示してみる。	課題 2 課題 1 で作成した Simple Text に、実際に HTML を書く。 具体的には、自分（講習生）のプロフィールを作成する。
	課題 3 新しいファイルで、背景色を黒にして、特定の単語を指定するフォントサイズ、フォントカラーで表示する。
	課題 4 課題 2 で作成したプロフィールに以下のとおり指定されたタグを使用する。 ・マイプロフィールを<H2>で書く。 ・名前から自己PRを強調する。 ・数字の部分进行他のすべてより強調する。 ・項目以外の文章で名詞の部分を太字にする。 ・項目以外の文章で地名の部分を斜体にする。
	課題 5 課題 5 で作成したプロフィールを箇条書きにする。 マーク付き、番号付きの両方を作成する。
絵や写真を表示する。	課題 6 今までに習得したすべてのタグを使用してイメージテキストを表現する。
	課題 7 実際に背景にイメージを用いる。 テキストも何か簡単な文章を5行ぐらい入れて、テキストカラーも設定する。
イメージファイル作成の補習	練習 描画ソフトで絵を書いて、透過 GIF を作成して表示する
	課題 8 実際にアニメーション GIF を作成する。 ホームページ用素材集の中のアニメーション用素材から好きなものを選んで実際に動かしてみる。 講師の提供したアニメーション GIF を自分で作成する
リンク	練習 HTML ファイルを2つ作成し、お互いのファイルを行き来できるようにリンクする。

	<p>課題9 講習生の好みのホームページを紹介するリンクページの作成。 ホームページをジャンル別に分類し、アンカー設定を行う。 単にリンクページを作成するだけでなく、今まで学習した内容も盛り込んで作成する。</p>
表組（テーブル）	<p>練習 内容は自由に、テーブルを作成する。</p>
	<p>練習 上記練習で作成したテーブルを使って3つのパターンの見出し付きテーブルを作成する。</p>
	<p>練習 キャプションを付けた表組、セルの縦幅を指定した表組セルの横幅を指定した表組の作成を行う。</p>
	<p>練習 ・表組のサイズを変える。 ・枠線の太さとマージンを設定する。 ・セル中のテキストの一指定を行う。 以上の3点を実際に行う。</p>
	<p>課題10 課題2で作成したプロフィールを元にして、表組を作成する。 その際、上記練習で習得したタグをできるだけ取り入れる。</p>
フォーム	<p>課題11 フォームを使ったページの作成を行う。 ホームページを呼んだ人にアンケートを行うという仮定で作成する。</p>
修了課題	<p>実際に、講習生自身のホームページを作成して、公開する。 ホームページの内容は最低限以下の4つの構成とする必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表紙（表紙絵、ホームページタイトル、各ページの目次、制作者の氏名、アドレス等） ・自由ページ（今まで描いた作品の掲示、好きな音楽等） ・プロフィール ・リンクページ

以上のように、講習の進行に合わせて課題若しくは練習が提示され、だいたい1日の講習で1~2の課題又は練習を行いながら技術修得を図った。

(4) 講習結果

講習期間が3週間と短期間であったため、当初は修了課題まで達成できるかどうか疑問があったが、無事すべての課題をクリアし、ホームページ作成に必要な基礎的な技術を習得することができた。

それには、以下のような要因が考えられる。

講師が、本人の理解度に合わせて、テキストを毎回再構成して送付していた。特に今回のケースでは、表組の理解に若干時間がかかったが、この点特に丁寧な指導を行ったこと。

受講生本人が、イラストに興味があり、ホームページ作成にも大きな関心を持ち、厳しいスケジュールの中モラルを保ち続けた。

職業講習受講中は、側に職業講習インストラクターがあり、簡単なトラブル等には即座に対応できる体制となっていたこと。

事前に文書作成やイラスト等の描画ソフトを習得していたこと。

(5) 運営面の問題点

講習自体は、効果的に進行、終了することができたが、これら運営面で反省すべき点がみられた。

特に、今回のような講習では、受講生と講師の間に筆者が入って講習時間や謝金等の調整を行っていたが、事前に時間的な余裕がなかったため、筆者と講師が直接会う機会がなかった。

また、講師と受講生も直接会う機会がなかったこともあり、コミュニケーションに欠けるところがあった。特に講習生は、電子メールを講習開始と同時に利用し始めたので、当初質問等に遠慮がみられ、講師がいらいらする場面もみられた。

したがって、講習開始前に受講生と講師に予備的な交流を持つ必要性と、運営サイドと講師は、極力直接会って打ち合わせを行う必要性を感じた。

また、講習終了後の講師からのヒアリングでは、講習を受講生本人がインターネットに接続していくところから始めた方がよいとの指摘があった。これは、情報を発信するに際しては、情報を広く伝えていきたいという積極的な姿勢が不可欠であること、また、技術的な面の理解を深める必要があることとの理由からであった。

3. 二例目の試行内容

(1) 経緯

2回目の試行は、東京の障害者支援組織であるNPOの職員が、今後、支援組織内でホームページ作成の作業等を行うこととなるので、ホームページ作成講習の受講を希望したので、この者を対象に行った。

したがって、HTMLの基本は、独学である程度習得していたが、在職中のため週1回か2回の受講しかできない状況であった。そこで、1997年12月から1998年の3月までの間各週水曜日を基本の受講日として実施した。

なお、この受講生も先例と同様に、下肢障害者であったが、自力で歩行可能であった。

また、講師は、熊本県在住の下肢障害者で、実際にホームページ作成等の作業を在宅で行っている人であった。

なお、今回は、事前に筆者が講師宅に行き、受講生の状況、受講の状況等について打ち合わせを行った。

(2) 試行方法

今回の講習は通所して行うこともあり、テキストは受講日の前日までに筆者の方に送付してもらい、その後筆者の方から受講生に転送した。

そして、受講生は受講日に来所して、総合センター内の職業講習室で課題を行うこととした。

なお、質疑応答及び課題の提出はすべて電子メールで行うこととした。また、受講日以外の日であっても質問に迅速に対応できるよう、受講日以外の質問は、講師が開設しているチャットルームに提出することとした。

(3) 講習内容

講習は、HTML の基礎を習得することを目的としていたが、基本的にはテキストが中心で、絵や図については、講習を行わなかった。

それは、講師自身が、イラスト等はそれに対応するソフトを習得すればよいもので、ホームページの作成で重要なことは、あくまで HTML での表現方法であるという考えていることによる。

また、受講生本人もこれらイラストの技術習得には興味をもっていないという状況にもあり、講師の方針で対応することとした。

なお、詳細な講習内容は以下のとおりである。

表 2 ホームページ作成講習の課題（第 2 例）

第 1 回 講習	以下に係るテキストの作成。 <ul style="list-style-type: none">・受講生の名前を初めとする個人情報・受講生のパソコン使用歴、使用できるソフト、できる仕事・受講生の趣味・受講生の仕事に対する理念・将来の展望
第 2 回 講習	リンクの設定、先に作成した HTML のテキスト間にリンクを設定する。 その際、以下の設定を行う。 <ul style="list-style-type: none">・ホームページの背景色・テキストの色の設定・リンクを表すテキストの色の設定

	<ul style="list-style-type: none"> ・一度見たことを教えるリンクのテキスト色の設定 ・クリックした瞬間、リンクボタンを何色にするか。 ・背景にグラフィックの設定
第3回講習	<p>今まで作成したホームページを、タグを使用して整形する。その際の利用するタグは以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しタグ ・〈P〉を利用して適度に行間を空ける ・〈BR〉タグ ・クリックするところを羅列する場合のリストタグ
第4回講習	<p>前回作成のホームページの検証と留意点の指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字コードに関する問題 ・META タグの配置方法 ・コメントについて
第5回講習	<p>前回の留意点について、受講生が理解できない部分があるとのことであったので、再度解説を行う。</p>
第6回講習	<p>フレームのホームページを作成する。その際の留意点の指摘を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリックする場所をできるだけ一箇所に集中させること。 ・動きの中心は、画面の中心で行うようにすること。 ・窓の中のデータは計算して作ること。
第7回講習	<p>さまざまなモニタでの見え方を統一させる方法を習得する。 テーブルの作成を行う。テーブル作成の基礎を習得するために、カレンダー作りを行う。</p>
第8回講習	<p>さまざまなホームページを検索、閲覧することにより、テーブルの作り方とそのホームページを閲覧する対象者との関係を検証する。 対象者を年頭に置いた見せ方の問題を指摘する。</p>
第9回講習	<p>ホームページ作成を今後企業等から受注する場合の留意点の指摘を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画力 ・プレゼンテーションの技術 ・ウェブサイト構築にかかるコンサルティングのノウハウの蓄積

以上のように、今回の講習は、技術的な能力の習得という側面に加え、今後ホームページ作成で仕事を行っていく際に必要な全体的な能力の向上を図っていこうという意図を持つものであった。

したがって、受講生は、途中体調を崩して講習を一時中断する時期があったが、全体として技術力の向上とともに、今後の心構えを会得することができた。

(4) 講習結果

上記のとおり、今回の講習においても一定の効果を上げることができたが、その要因は以下が考えられる。

講師が、自治体からのホームページ作成の依頼を受けるなど、第一線で仕事をしているものであったため、仕事の段取りや必要な観点も同時に教授することができたこと。

今回も、前回と同様にテキストは、講師自らが作成したものであり、受講生の進行に合わせて講習内容について柔軟な対応が可能であったこと。

さ細なトラブルや疑問点は、職業講習インストラクターや職員に聞ける環境にあったこと。

(5) 運営上の問題点等

今回の講師の自宅は熊本県と、遠方であったが、事前に直接会って打ち合わせを行ったため、特段のトラブルは発生しなかった。

また、週に1回か2回の講習であったので、テキストは事前に受講生に送付して、できるだけ前もって予習してもらうようにしていた。

そういったこともあり、今回の講習は比較的スムーズに進行させることができた。

4. 三例目の試行

(1) 経緯

過去2例においては、受講生は総合センターの職業センターに通所するか、あるいは宿泊施設に入所しなければならなかった。そのため、原則として、身の回りのことは自力で行う必要があった。

一方、筆者の試行の状況から、このような在宅講習を受講したいという希望者も現れたが、そのような希望を持つ者は、介護または介助が必要なものが多いといった実態にあった。

そこで、今回は、受講希望者に対して、在宅講習を実施することとした。

この受講希望生は、岩手県在住で、両上下肢機能障害を持つ1級の障害者であった。その契機は、水沢公共職業安定所の障害者雇用推進コーディネーターからのパソコン等を利用して就労できそうな障害者がいるがどうすればよいかという相談に始まる。

この希望者はワープロ、パソコンを施設で学習し、自宅でゲームを制作しており、コンピューターに対する関心が高いとのことであった。

そこで、在宅講習を実施することとしたが、今回は、ホームページ作成ではなく、データベースの作成講習を行うこととした。そして、その際はプロップステーションが実施しているデータベース作成のための基礎講座の講師に講習の依頼を行うこととした。

(2) 講習方法

この基礎講座は、先述のプロップステーションにおける在宅スキルアップセミナーのデータベース作成講習の基礎を習得するためのもので、原則として、共通の市販のテキストを各自で購入し、自学自習を行うものである。

したがって、自分のペースで学習し、質問がある場合は、電子メールで講師に質問することとなる。その質問に対しては、6名の講師、ボランティア、プロップステーション職員が回答するという形態をとっていた。

今回、受講生が遠方に在住のため、筆者が頻繁に進捗状況を管理することができないため、この自学自習の方法を取り入れた。また、受講生に対するフォローは、先の障害者雇用推進アドバイザーと地元の町の福祉保健課で対応することとした。

なお、講習期間に特段の定めはないが、だいたい4ヶ月程度での学習により、データベース作成の基礎の習得を目指した。

(3) 講習内容

基本的に市販テキストに沿った形で、受講生自身が学習することとなるが、そのテキストは、大きく15の章から構成されている。

その構成は大きく分類して以下のとおりとなる。

データベース処理の自動化

Visual Basic でプログラムを作成する。

独自のアプリケーションを作成する。

データとオブジェクトに取り組む。

注)「Microsoft Access97 ステップバイステップ」より転載。

なお、この基礎講座においては、質問が多いものは、その質問と回答をインターネット上に公開するとともに、最近の質問と回答も同様に公開している。

(4) 講習結果

受講生は、一通り課題を修得した。また、学習中に生じた疑問点は、電子メールでの問い合わせと公開されている質疑応答集で十分対応できた。

しかしながら、自学自習のため、受講生自らの学習の到達度を的確に把握できずに、この講座修了後のデータベース作成講座の中級コース受講に必要な実力考査を受けるに際してかなりの逡巡がみられた。

(5) 講座運営上の問題点

今回は自学自習の形であったが、受講生本人の技術習得そのものには特段の障害は生じなかった。

しかしながら、この受講生は、講習開始時点で、単体としてのパソコンは使いこなせる状態であったが、インターネットの利用は、まだほとんど行っていなかった。

そのため、当初より、受講生の電子メールでのコミュニケーションに、戸惑いがみられた。

したがって、このような自学自習の形態であっても、学習前のオリエンテーションの必要性があると考えられる。特に限定された範囲でのコミュニケーションしかないような環境の障害者に対しては、基本的な社会的ルール、殊にこのような場合は、電子メールでのマナーも十分教示しておく必要がある。

しかし、教育訓練施設等からみて遠方に在住している障害者に対する教育訓練手段として、その有効性は確認できたといえる。

5. 総 括

今回、インターネットを利用した教育訓練としては、マンツーマン型の在宅教育訓練の試行と自学自習型の試行双方を行ったが、基本的に両者ともに一定の効果を上げることができ、また問題点も明らかとなった。

一方、このマンツーマン型及び自学自習型それぞれに、特徴的に有効な点と問題点もある程度明らかにすることができた。

ここでは、インターネットを利用した教育訓練自体の効果と問題点への解決方法及び各々の教育訓練システムの効果と問題点への解決方法を検証してみることにする。

(1) 全体的な効果と問題点

今回の試行は、既に先駆的にコンピューターネットワークを利用して行われる教育訓練の効果を検証することができた。

そして、それらの効果で、最も重要な点は、移動困難な重度身体障害者や地理的な理由で教育訓練を受けることが困難な障害者に対して教育訓練機会を付与することができるという点である。

また、このような形の教育訓練は、時間を設定すれば、対面式の教育訓練の即時性をもつ訓練とすることができるし、また、即時性を持たせなくても自分の都合のいい時間に学習するといった通信教育の自由度も持たせることができる。

そういった点から言っても、今後在宅での教育訓練が、全国の障害者に対する教育訓練機会の平等な付与といった見地から、推進されていく必要があるといえる。

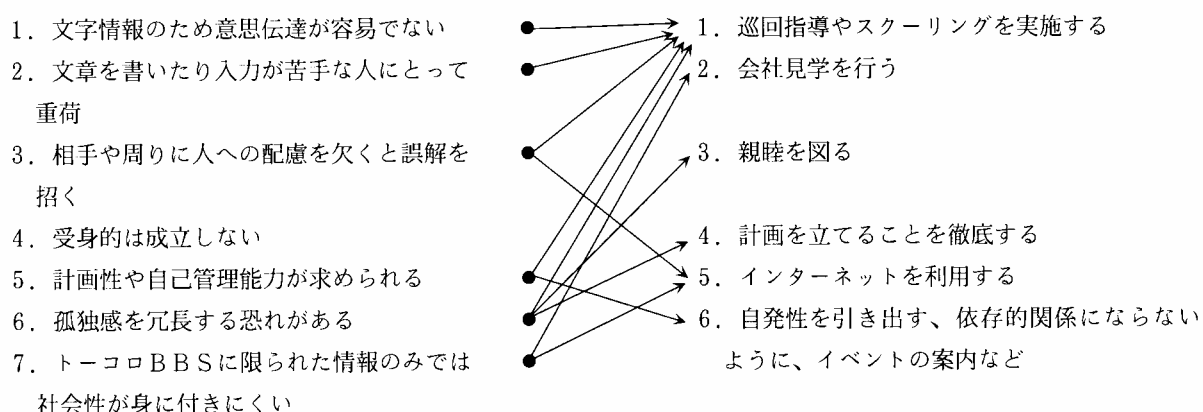
しかしながら、一方で、このような在宅講習は、決して万能のものではないことも十分認識しておく必要がある。

特に、コンピューター操作が初心者の場合は、機械的、あるいは軽微なトラブルが頻発することとが一般的のため、対面式での訓練の方が望ましいと考えられる。また、訓練受講生のモラルをアップさせるため、あるいは体調を把握するためには頻繁に講師が受講生に接する機会が多い方が有効であろう。

このような在宅講習に関する問題点については、東京コロニーの小川（1998）がいくつか指摘している。

それを整理したのが、下図のとおりであるが、ここで注目すべき点は、大部分の問題点は、巡回指導やスクーリングで対応可能であるという点である。

そういった意味で、在宅講習といったネットワーク上でのやりとりを主にしている場合であっても、直接的なコミュニケーションと指導の必要性を示唆するものであるといえるであろう。



(小川（1998）より)

図4 トーコロ情報処理センターにおける在宅講習のデメリットに対する対応

また、このようなコンピューターネットワークを利用するためには、当然これらの教育訓練を受けようとする障害者の自宅等が、これらに接続できるよう、その環境が整備されていなければならないし、また遠方であれば通信費の負担も増す。

そういった点から、これら訓練の受講を希望する障害者に対する公的な助成措置も今後必要となってくるであろう。

(2) マンツーマン方式の効果と問題点

この方式は、講師と受講生が一对一の場合、又は一对少数の場合といったように、少人数の訓練に有効である。

特に、今回のように講師が、受講生の学習の進捗状況に対応しながらの場合、その効果も確実であるが、逆に講師の負担が増大する傾向もある。

また、この方法は、講師と受講生のコミュニケーションは密接であり、また、時間を設定すればリア

ルタイムでの講習進行が可能となる。

一方、この方法ではその訓練の対象者数は、自ずと限定され、広範な訓練の受講ニーズに対応するには、かなり大規模な組織（公的機関等）で運営しなければ、その実現は困難であろう。

また、今回のように訓練受講生は、事前に基礎的ソフトの修得等必要な予習を行っていたが、このような配慮も必要になってくるであろう。

(3) 自学自習システムの効果とその問題点

この方式は、基本的な学習は個人ベースで進行し、コンピューターネットワークは補助的な機能を果たすことになる。

したがって、この場合、講師と訓練受講生のコミュニケーションは、相対的にはあまり密接にはならず、かつ訓練受講生が自己管理しながら学習していくことが、強く求められる。

しかしながら、この方式は、訓練受講生の自由度が高く、自分の体調等に併せて学習できるというメリットがある。

さらに、この方法であれば、訓練受講生1人に対する講師の負担は軽減されるため、マンツーマン方式に比べて、より多くの訓練受講ニーズに対応することができる。

そういった意味で、効率よく広範な訓練ニーズに対応する有効な方法といえるであろう。

第3章 障害者の雇用促進のための情報提供・交換システムについて

1. 経緯

インターネットの持つホームページ等の情報提供機能を利用して、これらを障害者の就労促進に結びつけていこうという動きが生じてきたのは、ここ数年のことである。

そして、その最も先駆的な動きは、筆者も参画している CWF(Challenged Working Forum)である。

この CWF は、慶応義塾大学の金子郁容教授が中心になり行っている VCOM プロジェクトの一環として行われているものである。

その契機は、先述のプロップステーションと野村総研が行ったリモートワーキング(プロジェクト)に始まる。そして、この実験の結果、在宅就労希望者と企業との間を仲介する機能の必要性が提示され、1997 年より CWF の活動を開始することとなった。

この CWF を始めるに当たって、プロップステーションと慶応義塾大学のメンバーを中心として、このプロジェクトに関心を持つものが参加することとなった。

そして、現在は日経連に所属している障害者等に係る知識をもつ人事担当者、障害者の在宅雇用に係る有料職業紹介事業を志向していた東京コロニーのメンバー、筆者、またボランティアで技術的サポートを行う企業のメンバーで構成されることとなった。

また、この活動は、当初障害者の在宅就労を主たる対象者として想定していたが、実際にプロジェクト事業を運営し始めると、在宅就労の主たる対象者である身体障害者以外の障害者(知的障害者、精神障害回復者)にも有効で、かつそういったニーズがあることが判明し、このプロジェクトの対象者を、障害者全体に拡大しつつある。

なお、この CWF は、さらに4つのサブケースプロジェクトから構成されている。

2. 各プロジェクトの取組状況

(1) CWF - OPEN

この CWF - OPEN の目的は、障害者就労に関心を持つ人が、自由に意見交換を行い、在宅就労を中心とした障害者の就労に対する理解を深めていくというものであった。

したがって、この CWF - OPEN は、文字どおり障害者の就労に関心を持つ人は誰でも参加できるメーリングリストとして運営されている。

このメーリングリストとは、当該メーリングリストに加入すると、そのメンバーの1人が出したメールが、当該メーリングリストに加入しているメンバー全員に送付されるという情報共有のシステムである。

したがって、このメーリングリストの加入メンバーは、障害者、障害者就労支援団体のメンバー、企業の人事担当者、研究者、行政、マスコミ関係者といった多種多様な属性を持った人達が、参加して、それぞれの関心事項についてインターネット上で議論が行われている。

それらの議論の内容は多岐にわたるが、例示すると以下のとおりとなる。

在宅就労において、インターネット等を利用した場合の通信費負担の在り方

障害の態様に応じた使いやすい機器に係る情報提供

公共職業安定所における在宅就労関係求人が少数であることの指摘

各種助成措置の内容とその活用状況

障害者就労に関する各種の事業、プロジェクトに係る情報提供

しかしながら、このメーリングリストも、加入者が増加するに伴い、議論の活発さが減少する傾向にあった。

その原因にはいくつか考えられるが、1つは、障害者サイドからの意見は、どうしても行政批判につながっていく傾向があるが、これが「自由な意見交換」という場にそぐわなくなってきたこと、また、異なる考え方の者同士が、お互いに遠慮して自由に意見を言いにくい状況に陥ったこと等が考えられる。

そこで、平成11年度(1999年4月)より、このメーリングリストは廃止し、後述のサブプロジェクトの1つである「障害者(チャレンジド)としごと - ジョブマッチングのための情報広場」の意見交換の場として再度運営されることとなっている。

(2) 障害者の就労関係データベースの構築

ここでは、障害者就労に有効な情報をデータベースとして保存し、障害者自身あるいは障害者就労に関心がある企業が自由にインターネットを利用して閲覧できるよう、そのシステムの構築を図っているものである。

したがって、ここに入力される情報は、「障害者の雇用の促進等に関する法律」及び障害者の雇い入れに係る各種助成制度は当然として、各種障害者雇用事例も入力している。

この障害者雇用事例は、日本障害者雇用促進協会が発行している「障害者雇用マニュアル」から最近の雇用事例を中心に70件程度が入力されている。

また、この事例については、利用に際しての利便性を考慮して、現在(1999年1月時点、以下本章、次章について同じ。)障害別、業種別、職種別に検索できるようシステム構築を図っているところである。

なお、同様に日本障害者雇用促進協会が発行している企業向けの障害者雇用マニュアルも同様に入力

しており、企業の担当者が利用できるようにしている。

この事業は、1997年より行われているが、このような形で障害者就労に係る総合的な情報を提供するシステムは、本邦初の試みであり、他のサブケースプロジェクトの利用者の参考資料として活用されることが望まれる。

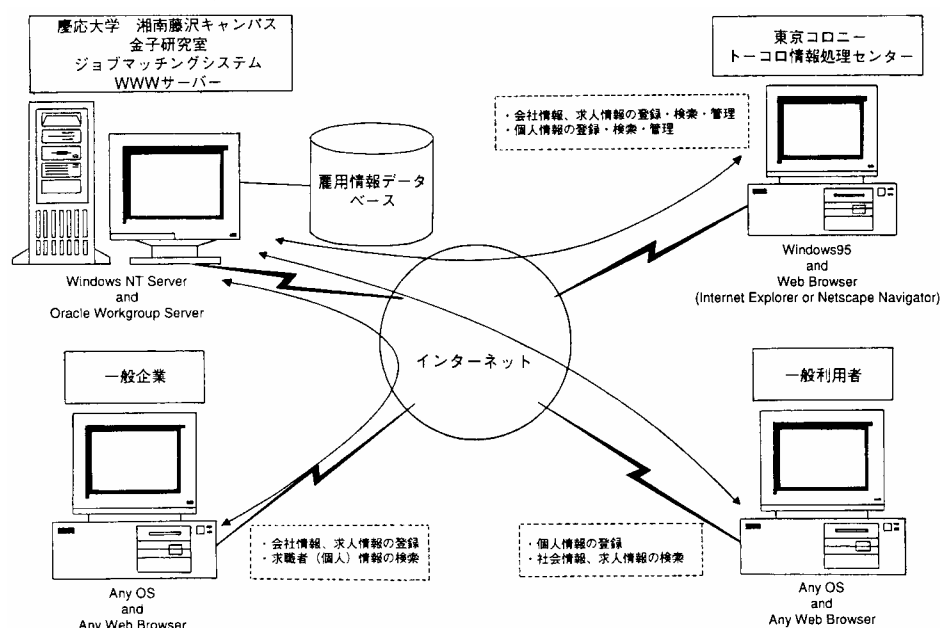
(3) 障害者（チャレンジド）としごと - ジョブマッチングのための情報広場 -

このシステムは、当初在宅就労を希望する障害者とこれらの障害者を雇用したい、あるいはこれらの障害者に仕事を発注したいと考えている企業をマッチングさせるための情報交換の場として設定された。

1997年当時、在宅就労を推進していく上での問題点の1つとして、在宅就労希望者は、求人等の企業の情報が不足し、一方、企業の方は、在宅就労できる障害者に関する情報が不足しているという状況にあった。

そこで、障害者及び企業が、それぞれのニーズを登録し、お互いに検索できるような情報交換の場があれば、有効ではないかという考えから、このプロジェクトは開始された。

具体的には、インターネットを通じて、障害者は、自らの属性と技術、及び希望の仕事を登録するとともに、企業も同様に、企業の属性、必要とする職種あるいは必要とする技術水準を登録し、お互いに検索可能なシステムとした。



(VCOM 活動報告より)

注) 当初のシステムでは、このシステム自体をトーコロ情報処理センターの有料職業紹介事業に活用するよう考えられていたが、現在は別々に運営することとしている。

図5 ジョブマッチングのための情報広場イメージ図

当然、個人情報登録されるわけであるから、個別の詳細な情報は、このシステムに登録しないと閲覧できなくしてあるが、個人を特定できない情報は自由に閲覧できることとした。

その結果、現時点では、障害者も 100 人以上の登録があり、企業も 20 社程度の登録がある。

しかしながら、このシステムの運用直後から、知的障害者の登録ができないかという問い合わせがあるとともに、ちょうど 1998 年に知的障害者の雇用の義務化が施行されることに伴い企業側の知的障害者に対する関心が高まっていたこともあり、知的障害者も念頭に置いたシステムにするよう現在、そのシステムの改訂が行われている。

また、当初は図 6 のように、ここで開発したシステムは、今後有料職業紹介事業の認可をえる予定の東京コロニーで、活用することを考えていたが、このように対象となる障害者が拡大したこと等により、VCOM が独自に運用を継続していくこととなった。

このような形で、運営を開始することとなっている、このシステムは大きく 3 つの特徴を有する。

その 1 つは、対象とする障害者の就労形態を、雇用契約のみならず請負契約も含めることとなった点である。

先の第 1 章(2)社会的インターメディアリーのところで、在宅就労には請負的就労が多いことを指摘したが、このシステムにおいては、このような状況に対応するため、企業が障害者に仕事の発注を希望する場合も登録可能な形とした。

現在の職業紹介（公共職業安定所、無料職業紹介、有料職業紹介事業）は、「雇用」を対象としているが、現時点では、雇い入れの最初の段階から在宅雇用するケースはまだ少ないのが実態である。そこで、このシステムは、職業紹介を行うものではないが、この部分に対応できるようにしているのは画期的なことであると考えられる。

また、この 1 つ目の特徴とも関連しているが、2 つ目の特徴としては、請負就労を希望する障害者のみならず、これら障害者を登録している就労支援団体自体の登録を可能としている点である。

すなわち、社会的インターメディアリーとして機能している組織が、団体として、このシステムに登録し、受注した仕事を、その所属（登録）しているメンバーに割り振っていかうというものである。

この団体登録を可能としたことにより、直接障害者に発注することに危惧を持つ企業についても、当該団体の受注実績や仕事の成果から、当該団体の信頼性が容易に判断できるようになったとともに、団体が受注主体であれば、体調面等に起因するトラブルにも十分対応可能となり、より企業の信頼性が増加するものと考えられる。さらに、これら仕事の受発注に係る事務も団体を契約主体とする方が円滑であると考えられる。

そして、最後の特徴は、このシステムに知的障害者を対象とすることになったのに伴い、障害者自身が登録するのに困難を伴う場合は、施設の代表者等が代理で、登録可能とした点である。

これは、先述したように、このシステムの対象者を拡大したことにより、これら知的障害者等を援助・指導している者が、登録を代行し、仕事を探していこうというものである。

この点については、運用を開始し始めたところであるが、今後セキュリティ面の配慮、代理事実の確

実な確認等検討すべき事項があると考え。

(4) CWF - CONSUL

この CWF - CONSUL は、筆者が運営しているメーリングリストで、障害者就労に関する相談や問い合わせに対応するために設立したものである。

なお、今までの状況等は、次章で詳しく検証することとする。

3. 今後の展望

1999 年度も、この CWF の活動は、継続していくこととなるが、各サブプロジェクトの解説で述べたとおり、今後はジョブマッチング広場を中心機能として、事例等の情報提供やコンサルテーションの機能を補完していくという、各サブケースプロジェクトの関係が、より緊密になるように運営されていくであろう。

また、このような先駆的な取組みでは、今までの枠組みを越えた活動が多く、実態としては試行錯誤を繰り返すこととなっているが、これら実績を蓄積し、全国的に展開していけるようにしていく必要があると考え。

第4章 CWF - CONSUL について

1. 経緯

当初、筆者の「障害者の雇用促進におけるインターネットの活用に関する研究」は、在宅就労に焦点を絞っていた。

そのため、在宅就労を希望するような重度身体障害者に関しては、自宅に居ながらにして、就労に関する情報の収集や相談事項に対応できる環境を整備する必要性を感じていた。

そこで、在宅就労に関する問題に対応する方法として、メーリングリストの利用を行い、その有効性を検証するとともに、直接現場から、在宅就労に関する問題点を把握することとした。

このような計画の下、先述の VCOM でも同様の就労に係る相談の場を設置しようとしているとのことであったので、この実験事業を VCOM との共同研究で行うこととした。

2. 相談方法

上記1のとおり、障害者が自宅で相談できる体制を作るため、相談は電子メールで受け付けることとした。

また、この相談に対しては、様々な分野の専門家からのアドバイスが必要であると考えたため、これら専門家のメーリングリストを設置した。

したがって、このメーリングリストは、第3章で紹介した CWF - OPEN とは違い、加入するメンバーは限定して運用することとした。

そのため、このメーリングリストの登録メンバーには、在宅就労している障害者、障害者就労支援団体のメンバー、企業の人事担当者、研究者、障害者就労に関するカウンセラー、行政関係者、税理士と各分野の知識や経験を有する人達に加入してもらうこととした。なお、具体的な事例で労働省に直接関わる相談については、筆者が窓口となって、労働省に問い合わせが行えるよう労働省にも窓口を依頼している。

また、このメーリングリストは、総合センターのサーバーに設置して運営し、その管理は筆者（以下「管理者」という。）が行うこととした。

そして、ここに寄せられる相談は、プライバシーにかかる事案が多く、また具体的なアドバイス、情報提供が必要なため、ここでやりとりされる情報は原則として、全て管理者を経由することとした。

具体的な相談の流れは書きのとおり。

(1) 相談がある障害者は、相談内容を書いた電子メールを管理者（cwf-consul@nivr.jaed.or.jp）に送

付する。

- (2) 相談を受理した管理者は、相談内容を確認の上、その論点を整理する。

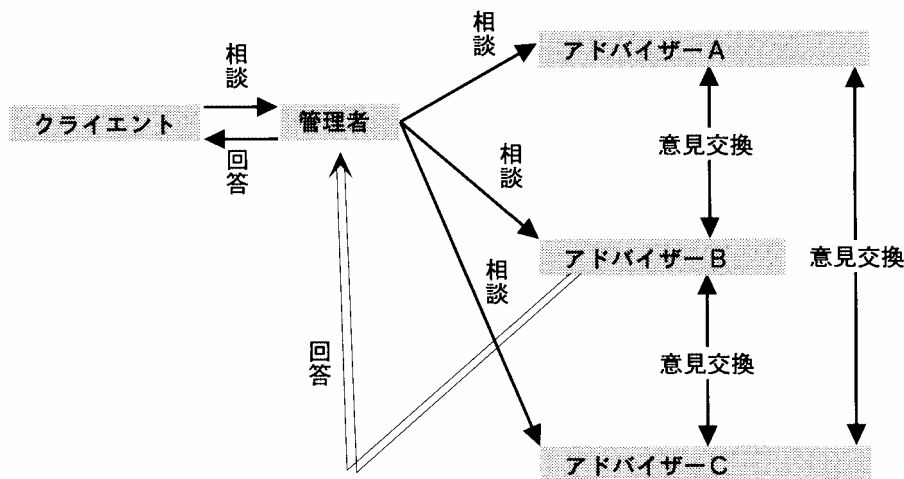
したがって、相談内容が明確でない場合は、再度相談者に問い合わせを行うとともに、簡単な情報提供等であれば管理者で対応することとなる。

そして、この論点整理の後、メーリングリストのメンバー（`cfw - core@nivr. jaed. or. jp`）に相談内容を転送する。

なお、この転送に際しては、相談内容に応じて、当該相談の対応者を指名して行うこととした。これは、相談に対する迅速な対応と的確な回答を導き出すためである。

- (3) 転送の結果、回答があった場合は、管理者と相談者に当該回答を記載した電子メールを送付してもらう。

なお、回答が複数ある場合は、管理者の方で整理した上で、相談者に送付することとしている。



(依田 (1999) より。)

図 6 CWF-CONSUL における相談から回答までの手順（図中の相談・意見交換・回答は全て e-mail で行われる）

3. 相談内容

(1) 概要

このメーリングリストの運営は、1997年9月より開始し、現在までに約20件の相談があった。

その相談内容の多くは、今まで仕事に就いていなかった、あるいは症状が進行して仕事を継続できなくなったが、パソコンで在宅就労可能かという初歩的な質問が多かった。

そのようなケースについては、必要な技術習得の場の紹介といった情報提供、及び今後に向けての激励により対応するケースが多かった。

このような在宅就労に係る初歩的な相談に関する具体例は下記のとおりである。

表3 CWF-CONSULの相談概要

障害の種類、程度等	性別	相談の概要
脊髄小脳変性症による体幹障害 3級	男	在宅勤務でデータ入力の仕事を行いたいが、可能か。
脳性麻痺 4級	男	6年間生活保護を受けてきたが、パソコンを入手することができた。仕事の可能性はないか。
頸椎損傷による四肢麻痺	男	ホームページを掲載している企業を中心に仕事を依頼しているが、すべて断られた。 自分の実力に疑問を持ってきたので、客観的に自分の技術を判定してみたいが、どうすればよいか。
軽い脳性麻痺、力仕事で頸椎ヘルニアのため離職	男	インターネットは趣味で楽しんでいるが、在宅就労で社会復帰したいが、どうすればよいか。
脳性小児麻痺 2級	男	障害が進行し、外で働けなくなった。 CG、画像編集、パッケージデザインまで手がけて、デザイン歴は25年ある。 MAC、DTPの経験もあるが、仕事が少ない。 どうすればよいか。
進行性筋ジストロフィー 1級	男	現在、自宅でワープロ打ちの仕事をし、NTTのタウンページにも仕事の依頼の広告を出しているが、仕事が少ない。 どうしたらよいか。
左上腕部機能全廃、歩行障害	男	仕事を探しているが無い。 社会保険労務士の資格を目指して勉強しているが、将来希望はあるか。
聴覚障害	女	MACを使って仕事をしたいが、どうすればよいか。
重度脳性小児麻痺	男	今まで就職していたが、失業した。 キャドソフトを訓練校で学習中であり、1999年3月で卒業だが仕事が無い。 どうすればよいか。
アテトーゼ型四肢麻痺 1級	男	大学卒業後、就職できず、現在訓練校でワープロ、表計算ソフト、CGソフトを学習中である。 在宅就労の可能性はあるか。

頰椎損傷	男	インターネットでホームページを見たり、写真を取り込んでカレンダーを作ったりしているが、仕事をしていくことができるか。
内部障害（慢性腎不全）	男	トラック運転手をしていたが解雇された。 パソコンは全くの初心者であるが、資格を取って仕事をしたい。 どうしたらよいか。

以上のとおり、相談者のパソコン関係技術の修得程度は、全くの初心者から、ある程度仕事の経験がある人まで様々であるが、在宅就労で何とか自立したいと考えて電子メールを送付してきている。

特に、中途障害者や障害の重度化等の理由で、離職を余儀なくされた人達の相談は切実なものであった。

したがって、本メーリングリストにおいては、たとえ在宅就労に関する認識が十分でない場合であっても、相談者に希望を持ってもらえるようなアドバイスを心掛けた。

また、現状では、インターネット上における障害者の在宅就労に関する情報量自体も少ない上に、これらが整理された上で公開されているわけでないので、相談者が必要としている情報の所在を指摘するだけでも相談者の満足につながるが多かった。

なお、上記のような相談者は、このメーリングリストへの相談が、初めての相談である場合が多いため、この相談の後に様々な就労に向けての活動を起こすための第一歩となるものとの認識で運営していた。

したがって、この相談の中では、当初の相談では、在宅就労に関するイメージが漠然としていたが、その後相談者の関心事項を確認する電子メールの交換が行われていくうちに、相談者本人が在宅就労に関する自覚が芽生えていったケースもあった。

(2) 具体的事例の紹介

上記のような、いわば「入り口」の相談とは別に、相談趣旨に明確な意図がある相談や、在宅就労やインターネットの利用について示唆に富む事例もあったので、ここでそれらの事例について検証してみることとする。

個人事業所で就労支援を行っているケース

イ 相談内容

障害者に対する在宅就労の紹介、パソコン教室の開催、パソコン講師の紹介を行うため、法人組織ではなく、個人事業者として事業を運営している人からの相談で、これらの事業は円滑に運営できないとのことであった。

したがって、これらの事業運営のために、何らかの公的助成はないかというのが、相談の趣旨であっ

た。

また、この相談内容には、実際に事業運営において、協力しているスタッフの障害者に対する態度がまちまちであること等、いくつかの問題点が指摘されていた。

ロ 回答内容

上記のような相談内容に対して、メーリングリストのメンバーからは、事業目的を明確にする必要性が指摘された。

すなわち、障害者の就労促進のために同様の事業を行う場合であっても、当該事業の運営主体が、どういった目的で設立されたものであるかによって、公的な助成措置が変わってくるという趣旨であった。

したがって、相談者のような個人事業として運営するとなると、あくまで営利目的の組織の運営ということになり、公的助成を受ける可能性も少なくなる。

そのため、あくまで個人事業として継続していくのであれば、営利事業の部分を強化し、一定の収益を上げて、組織の基盤を強化していく必要があるとの指摘があった。

また、このような障害者のための事業を行う上で重要な点として、障害者の実際のニーズを把握した上で、実行していくべきだとの指摘も行われた。

ハ 留意事項

今回のケースにおいては、その問題の基本は、事業内容自体は NPO 的な方向性を志向しつつも、実際の運営主体は、営利目的の事業者であるというギャップから生じていると考えられる。

したがって、一緒に事業を行うスタッフの障害者に対するスタンスにも影響を与え、結果的にスタッフ間の親近感や求心力を失っているという状況に至っている。

最近、インターネットの進展により障害者の在宅就労にも注目が集まるようになったと同時に、今まで障害者問題に関係していなかった人も、徐々にこういった事業を運営していこうとする人たちも増加してくることが予想される。

確かに、それらの活動は、今回のような個人事業でなく、ボランティアベースのものもあるであろうが、いずれにしろ、今後このような障害者の就労支援を行っていく場合の、その組織形成や専門家の育成に関するノウハウを蓄積し、これを公表していく必要があると考える。

また、その基盤として、これらの組織の社会的評価を高めていく必要性を感じさせる事例となった。

在宅就労上のトラブルに関する事例

イ 相談内容

相談者は、障害者で、実際に在宅で、企業からの仕事の発注を受け就労している人であった。

そして、この相談者は、ある企業（以下「C 社」という。）から原稿執筆の依頼を受けた。そして、その原稿料として月 1 万円を受け取るという契約を、電子メールを使って結んでいた。

しかし、この原稿執筆の原稿料 3 ヶ月分の支払いが、その支払いの度々の請求にかかわらず、未払い

となっているというものであった。

そこで、相談者は、地元の労働基準監督署に相談したが、この契約が雇用契約でない上、現行の家内労働法でいうところの「内職」にも該当しないため、労働基準監督署では対応できないとのことであった。また、民事上の契約として、弁護士にも相談したが、契約の金額が少ない上に、支払い義務の立証が困難ということであった。

特に、この支払い義務の立証といった面からみると、契約のやりとりが電子メールでなされていたというのが、大きな障壁となっていた。

なお、相談者は、この相談に併せて、支払い義務不履行を理由としてC社に対して、作業中止の連絡を行った。また、相談者自身、既に労働基準監督署と弁護士に相談して、相談内容に係る解決が困難なことは十分に認識していた。

したがって、この相談も、その解決というよりは、このメーリングリストのメンバーに問題提起を行うという意図の方が、強いように感じられた。

ロ 回答内容

このような相談に対して、このメーリングリストの複数のメンバーからいくつかの指摘が行われた。

まず、契約内容が曖昧であること、少額の契約であっても正式な契約を結ぶ必要性が指摘された。また、在宅就労の場合、その報酬の支払いは、通常2~3ヶ月遅れるのが現状であり、契約不履行とまでいえないという指摘もあった。

そして、これらの議論の延長線で、在宅就労者の契約関係を保護する社会システムの必要性や契約、税法上の処理を代行する機関を設立する有効性の指摘等が行われた。また、このようなトラブルに対応できるように在宅就労者と企業との仲介を行う、公平・公正な組織の必要性についても言及された。

一方、技術的な側面からは、電子メールを公的な契約として有効とするための認証技術や、その普及の必要性についての指摘と、当該技術の現状の紹介が行われた。

ハ 留意事項

今後、在宅就労の普及に伴い、このような契約上のトラブルが増加することが予想される。

特に、その中でも在宅就労を行う移動に困難を伴う障害者の場合、直接相対して契約書を作成することに困難を伴うといった事態も予想される。さらに、障害者自身、社会経験が少なく、契約上の法律関係に詳しくない場合も考えられる。

したがって、このような契約を結ぶ場合の注意点等に係るガイドラインを公表する必要性と、また、これらトラブルに係る相談に応じる専門の機関、あるいは仲介組織での契約面も含めた専門家の育成の必要性を痛感させられる事例となった。

なお、今回のケースでは、このメーリングリストへの相談の直後に原稿料の支払いがあったとのことであったが、在宅就労者に対する企業の報酬等の支払い、あるいは必要な経費の事前の負担等、たとえ請負契約であっても配慮すべき事項であると感じられた。

知的障害者に係る事例

イ 相談内容

この事例は、児童福祉施設で保母をしている人が、当該施設入所者に係る就職の相談のために、電子メールを送付してきたものである。

具体的には、両親に養育能力がなく、現在養護学校の2年に通っている知的障害者について、学校卒業後、住み込み可能な就職先はないかというものであった。

特に、この相談者の場合、当該相談に係る子が、学校卒業後成人すると施設を退所しなければならないということに危機感を感じているようであった。

ロ 回答内容

上記のような相談に対して、このメーリングリストのメンバーからは、幸いこの生徒が養護学校の2年生ということであるので、当該児童福祉施設内で、就職に必要な「一人暮らしの仕方」、「人とのつきあい方」、「金銭管理の仕方」、「求人探し方」、「交通機関の利用の仕方」、「行政機関の利用の仕方」等を教えて、社会人として自立していく上で必要な知識や技能を、実習形式で教えるようアドバイスがあった。

これに対して、相談者より、求人を探す前にやらなければならないことが多くあることを再認識した旨の返答とともに、今後地元の公共職業安定所でも相談してみるとのことであった。

八 留意事項

この事例は、インターネットを利用したこのような相談システムは、身体障害者あるいは在宅就労者といったように対象を限定しなくても有効に機能する可能性を示唆していると考えられる。

すなわち、知的障害者自身がインターネットを利用する事ができない場合であっても、当該知的障害者が所属する施設の職員や両親等の近親者等が、その代理となり、これらのサービスを活用していくことが可能だということである。

このように考えると、逆に、これらインターネットを利用したサービスは、その対象者を限定しないようにしなければならないということになる。

特に、これらサービスの提供を公的機関が行う場合には、その点を十分に留意しておく必要があると考える。

そういった意味で、この事例は、示唆に富むものであったと考えられる。

精神障害者に係る事例

イ 相談内容

この相談は、相談者本人の当初の相談に関しては、回答があり、本人も納得した事例であるが、その後現在に至るまで、このメーリングリストのメンバーの1人が交流を継続しているケースである。

この相談者は、精神障害のため離職し、10年を経過しているが、被害妄想があり、自宅の外に出られないという人である。

しかしながら、年齢等から考えて、パソコンを利用して就労していきたいが、現在は通院の傍ら絵を書いて売っているが、生活費を稼ぐ程度にはなっていないとのことであった。

そして、こういった状況でも就職可能かという問い合わせであった。

ロ 回答内容

メーリングリストのメンバーからは、今回の相談者は、イラストを描くことに興味を持っているので、基本的には、ソフトを使ってこれら描画の技術を身につけていこうという回答があった。

これに対して、相談者は、興味を示していたが、途中早急に報酬がもらえるような仕事はできないかというような焦りもみられた。

しかしながら、相談者自身の長所を伸ばしていく方が、将来的には有効であるというアドバイスにより、描画関係ソフトを使って学習を継続し、相談者本人のホームページに自分の描いた絵を掲載している。

そして、現在もこのアドバイスを行ったメンバーに絵を送付し、その意見等の交換がなされている。

現状では、就労に向けて具体的な行動とはなっていないが、症状も考え、徐々に社会との接触を進め、本人にステップアップの意志が出てきたら次のアクションに移すよう考えているところである。

ハ 留意事項

この事例は、精神障害者に対する、このような電子メールでの相談サービスが有効であることを示唆していると考ええる。

特に、今回のように、他人と直接接することに極端なストレスを感じるようなケースにおいては、電子メールでのコミュニケーションの特徴である間接性とともに、相談者が相談したいことのみについて、アドバイスをもらえるといったこのようなシステムは有効に機能すると考えられる。

要は、メーリングリストによるコミュニケーションは、直接相対して話したり、さらに電話よりも間接的であるが、これを相談場面で活用することが可能であるということを示唆している事例といえる。

なお、今回のケースは、カウンセリングの専門家であるこのメーリングリストのメンバーが、相談後も対応しているが、ステップアップを行う等の必要があれば、再度管理者の方に、この相談者を戻してもらうことも配慮していくべき事例であるといえる。

そういった意味で、様々な示唆に富んだ事例であると考ええる。

独立志向の事例

イ 相談内容

この相談者は、精神疾患により退職後、データ入力等のアルバイトを行っていたが、さらに、その後頸椎症により体力低下をみているという状況にある。

そして、データ入力等のアルバイトを、インターネットを利用した在宅就労で行っているが、実際には体力的にハードで、自立には結びついていかないと判断した。

そこで、音響関係機器に関心があったので、これらの機器の輸入代行業を自営していきたくと考えているが、相談者のみの力では起業していくのは困難である。

したがって、この趣旨に賛同してくれる個人や協力してくれる起業を募集したいというものであった。

ロ 回答内容

この事例は、このようにクローズドな形で運営しているメーリングリストで、賛同者等を募集するよりは、より多くのメンバーが加入している CWF - OPEN の方で行った方がよいと判断した。

したがって、CWF - OPEN の方に登録し、同様のメールを公開してもらうこととした。

ハ 留意事項

今回のケースは、その相談内容そのものより、このような意図を持つに至る経緯について重要な指摘があった。それは、障害者が個人で直接企業等からの仕事を受注し、遂行するという事に困難を伴うこと、そして自らの体調等を企業に対して申告することの困難さである。

今回のケースからも明らかなように、障害者と企業等を仲介する組織の必要性を痛感するとともに、企業側の納期等に関する配慮が必要であると感じられた。

また、障害者自身の自立のためには、自分に合った形で仕事ができるよう、就労形態、職種についても、その選択肢を増やしていく必要があるであろう。

4. 総括

(1) メリット

上記3の事例紹介に係る留意事項でも触れているが、今回の電子メールを利用した相談事業は、一定の効果を上げることができ、また、その発展の可能性についても確認することができた。

このメーリングリストのメンバーである依田（1999）は、このような形での相談業務の有効性として、下記の4点を指摘している。

24時間受付可能な相談窓口

移動困難者への対応が可能

相談の所要時間を気にしなくて済む

複数の相談員の意見を一度に聞ける

上記については、このメーリングリストを開設する当初から、その目的としたものである。

また、今回の相談者の住所は東京都とその近辺が最も多いが、北海道や沖縄県からの相談もあり、地理的なハンディキャップを感じさせないものとなっている。

また、 については、電子メールの特徴を反映した利点となっている。

すなわち、いわば「電子メールが持つ間接性」というものである。そして、この間接性というものには、2つの側面があると考えられる。

その1つは、時間の間接性すなわちリアルタイムではないという特徴である。通常相談を窓口で直接相対して行う場合は、窓口の開設時間や相談一件あたりの標準所要時間があるが、電子メールの場合は、相談者及び相談対応者双方の都合のいい時間に対応可能となる。

また、もう1つの側面は、コミュニケーションの間接性である。

すなわち、直接相対している場合や電話の場合と違い、直接相手の姿や声に接することはない。したがって、今回の事例でも紹介した分裂病の場合や人とのコミュニケーションに違和感を持つ障害者には、この点が有効に機能するだけでなく、相談内容の論点が明確な場合にも、よけいな手間をかけずに相談することができる。

なお、 はメーリングリストの形で運営することのメリットといえる。特に今回のメーリングリストのメンバーの大半の人達は、お互いに一緒に仕事をするなどして、個々のメンバーの状況等を、管理者が把握できていたことにもよる。

以上の依田の指摘は、電子メールで相談業務を行い、その対応としてメーリングリストという形態をとる場合のメリットであるが、今度は、内容的には、どのような事例が、このような相談に適しているか見てみることにする。

今回の相談では、「在宅就労を始めたいと考え、まず何をやればいいのか」という趣旨の相談が多かった。このことから考えられるに、その相談の利便性（もちろんインターネットに接続していることが前提条件であるが。）から、最初の相談窓口としては有効であると考えられる。

特に、先述した移動困難な障害者の場合、近所に就労関係を相談する機関がない場合、言語に障害がある場合には、受付相談として機能するものと考えられる。

一方、逆に相談事項が具体的で、何を回答してほしいか、その意図が明確な場合にも有効に機能する。特に電子メールでの相談では、文書を作成するに当たって相談者の抱える問題点が明確になる傾向にある。

そういったことから、「聞きたい点だけを聞く」ということについても、十分有効に機能すると思われる。

また、今回のメーリングリストは、開設当初は、身体障害者を念頭に置いていたが、知的障害者や精神障害（回復）者にも有効であることを示唆する事例もあった。そういった意味では、障害者全般の就労問題に対応可能なツールとなりうると考えられる。

(2)留意点

このように、電子メールを利用した相談業務は、相談者が主体的に行動し、その趣旨を文書の形でまとめて送付しなければならない。現に、今回の実験でも相談者の真摯な態度と前向きな意欲が感じられ

る相談が多かった。

しかし、このメーリングリストで解決されるのは、あくまで、相談者が電子メールに書いた内容についてのみである。

したがって、この場で、最終的な解決法を提示するものではない。そういった意味では、受付相談として、その後どういった方向に進むべきかを助言するものである。

そのため、このメーリングリストを契機に、他の機関の利用や他のサービスの利用につなげていくよう、これら社会資源情報を提供するようにしていかなければならないであろう。

特に、相談者が抱える問題点の原因を障害者自身が把握していないような場合は、的確な判断が必要となってくるであろう。

また、電子メールでのタイムラグは、先述したとおりであり、また実際の相談内容にも緊急性を持つものはなかったが、当該相談に対する回答は、一両日、遅くても1週間以内に行えるよう努力していくべきであろう。

今回、メーリングリストのメンバーはボランティアで参加していたため、相談への対応が遅れることもあったが、このような形での相談を事業として行う場合には、十分留意しておく必要がある。

なお、メーリングリストでの運営については、依田が指摘するように、複数の専門家の意見を聞けるというメリットがあるが、その構成メンバーについては、オフ会等で当該メーリングリストの運営方針等について十分意見交換を行っておく必要がある。

メーリングリストの運営方針等についての理解が十分でないメンバーがいると、自由にアドバイスしにくい状況となる危険性を持つので十分留意しておく必要がある。

第5章 結 論

1. インターネットを利用しての在宅就労推進の取組み

インターネットの進展に伴い、障害者特に移動困難な障害者は、このインターネットを社会との接触を持つため、また必要な情報を収集するためのツールとして積極的に活用してきた。

そして、この活用の延長線上に「在宅就労」に関する期待が高まっているのが現実である。

しかしながら、この在宅就労を推進していくためには、やはりこれらの障害者を採用する、あるいはこれら障害者に仕事を発注する企業の信頼を得るだけの環境を整備していく必要がある。

すなわち、企業が必要とする技術水準を修得した障害者の存在と企業と障害者の間を仲介する公正・公平な仲介機能の存在である。

現在のインターネットの普及状況を考えると、企業も障害者の在宅就労とりわけ在宅雇用を行うだけのテレビ会議等のインターネット関連技術は十分進展しているといえる。したがって、ここで必要な点は、障害者の在宅就労の推進を支援していく社会システムの存在である。

今回調査した地方自治体の支援を受けた在宅就労支援は、NPOなどの民間、研究機関、行政の3者で、在宅就労支援の枠組みを構成していこうという新たな試みであるといえる。特に、障害者の在宅就労においては、民間団体が主導して、その推進を図ってきたという現実があるため、この民間団体の取組みを如何に支援していくかが重要な点となっている。

また、このように障害者と企業の間を仲介する社会的インターメディアリーは、財政的、人材的にもその基盤が弱いという実状からいって、その支援は急務である。さらに、これら社会的インターメディアリーに公正さを確保するためにも行政的な支援が望まれるところである。

一方、障害者の在宅就労に必要な技術の付与という点に関しても、民間団体の方が先駆的、積極的に取り組んでいる。

しかし、現状では、このような取組みを行っている組織も限定されており、結果的にその訓練の対象者も少なく、また当該訓練に係る職種も限られているのが現状である。

したがって、本稿でみてきたように、自学自習方式とマンツーマン方式を組み合わせ、大規模な職業訓練システムの構築が望まれる。例えば自学自習システムは対象者を多く基礎的な技術付与に向いているであろうし、マンツーマン方式は、市場に通用する技術付与を行うだけでなく、進行性の障害等特段の配慮を必要とする者も対象となりうるであろう。

なお、このような職業訓練システムの構築にあたっては、その訓練職種をコンピューター関連技術のみに限定しないよう十分配慮すべきである。

確かに、コンピューター関連特にインターネット関連技術に係る職種は、在宅就労に向けた職種では

あるが、今後在宅就労を普及させていくためには、翻訳、各分野でのコンサルタント業務、資格取得のためのコースといったように、あくまでインターネットは、仕事遂行のツールとして利用するような形で職種拡大を図っていく必要がある。

2. インターネットを利用しての情報提供・交換システムについて

本稿で紹介した CWF (Challenged Working Forum) の活動は、障害者と企業をマッチングさせるために必要な機能の検証を行っている。それは以下のとおりである。

- (1) 就労事例等の情報提供機能
- (2) 就労に係る相談機能
- (3) 企業と障害者のマッチング機能
- (4) 自由な意見交換の機能

したがって、最終的に上記(3)に結びつけていくために情報提供、相談機能を持つという構成となっている。

現状では、それぞれの機能は独立しつつ連携を図っており、上記(4)の CWF - OPEN から(2)の CWF - CONSUL へ、あるいはその逆方向での電子メールの転送、または上記(1)のジョブマッチング広場に登録する前に CWF - CONSUL に相談する、あるいは就労関連事例を参考にするといった形での連携が行われている。

しかし、将来的には、これらの機能は一体として機能する 1 つのシステムに統合され、運営されていくことが望まれる。

すなわち、CWF - CONSUL の持つ就労に係る一般的な相談機能とは別に、マッチングのために個々の具体的な事案に対応する相談機能が必要であるということである。

もちろん、インターネットを利用したこのようなシステムは、在宅就労を希望する障害者にも有効に機能するのは当然であるが、それ以外の障害者にも十分有効に機能していくことが予想される。

そういった意味からも、この CWF の活動は、在宅就労促進における就労前の社会的インターメディアリーとして機能しつつ、障害者就労全体の就労促進に寄与するシステムに敷衍していくことが望まれる。

また、このシステムは、現在 VCOM という慶応義塾大学と野村総研の実験プロジェクトが行っている研究事業であるが、将来的には、こういった機能は公共職業安定所等の公共機関が、その運営の主体となっていくことが望まれる。

特に、このようなマッチング機能には、先述したように社会的インターメディアリーとして障害者、企業双方の信頼感を得ている必要がある。また、これらの機能を円滑に運営していくためには、障害者、企業双方への訪問による指導等きめ細かい対応が必要となる。

そういった意味で、現在の実験の結果を公共機関が有効に活用していくことも念頭に置いていく必要がある。

《文 献》

引用文献

Evan Callahan(海江田 一詩訳) : ACCESS97 ステップバイステップ , アスキー出版局 , 1997 .

高知県ホームページ(<http://www.pref.kochi.jp/>)

小川 弘子 : トーコロ情報処理センターにおける遠隔教育, 移動困難な重度障害者に対するコンピューターネットワークを利用した訓練に関する研究 , P51 - 60 , 1998.

戸ヶ崎文泰 : インターネットを利用しての障害者の在宅就労の推進 - 課題と問題点 - , 第 5 回職業リハビリテーション研究発表会論文集 , P12 - 15 , 1997.

戸ヶ崎文泰 : 障害者の就労促進におけるインターネットの活用状況について - 課題と問題点, 第 6 回職業リハビリテーション研究発表会論文集 , P146 - 149 , 1998.

戸ヶ崎文泰 : 障害者の在宅勤務推進における社会的インターメディアリーの必要性について , 職リハネットワーク No39 , P32 - 35 , 1998.

戸ヶ崎文泰 : インターネットの活用と今後の障害者就労の在り方について , 職リハネットワーク No43 , P4 - 7 , 1999.

依田 隆男 : インターネットを活用した就労相談の取り組み , 職リハネットワーク No43 , P20 - 23 , 1999.

参考文献

サイバードホームページ(<http://202.215.1.100/cybird/>)

堀込真理子 : 在宅就労支援について - 3 年目におけるフィードバック - , 第 6 回職業リハビリテーション研究発表会論文集 , P150 - 153 , 1998.

国立職業リハビリテーションセンター : 移動困難な重度障害者に対するコンピューターネットワークを利用した訓練に関する研究 , 1998.

プロップステーション・野村総研 : 障害者リモートワーキングプロジェクト PH - 1 実験報告 , 1996.

労働省・日本障害者雇用促進協会：在宅勤務方式による重度障害者の雇用の促進に関する調査研究 ，
1996.

社会福祉法人東京コロニー：コロニーとうきょう VOL110，1998.

竹中ナミ：プロップステーションの挑戦，筑摩書房，1998.

東京コロニー・トーコロ情報処理センター：トライアングル VOL11，1997.

VCOM プロジェクト：VCOM プロジェクト 1997 年度報告書，1998.

W・A・スピックス：テレワーク世紀，日本労働研究機構，1998 .

資料1 ホームページ作成講習テキスト(第2講習)

第1回講習

ホームページを作りましょう。

企業や官公庁のホームページのアウトソーシング(外部発注)が増えています。ホームページの制作自体はそれほど難しいものではなく、簡単に行うことができます。むしろ、ホームページによる情報発信において、一番困難な事とは、情報の更新にあるといっても過言ではありません。

インターネットによる情報発信の基本は常に最新の情報を独自に公開できることとも言えます。私達が今後、企業や官公庁といった大きな組織のホームページを制作させて頂くようなことがあった場合は、上記のことがメインになるであろう事を自覚する必要があります。

ホームページの制作は HTML (Hyper Text Markup Language) という記述方法を覚えることによって可能になります。制作にあたり必要な物は以下の通りです。

- ・テキストエディタ

(Windows95 での「メモ帳」という物です)

- ・ウェブブラウザ

Netscape Navigator や Microsoft Internet Explorer といったホームページを閲覧するためのソフトです。

上記たった2種類のソフトがあればホームページの作成は可能です。

- ・制作の手順

1) パソコン側の準備

ホームページをインターネット上に公開する際、それぞれのホームページは任意のディレクトリ上で展開されます。「任意のディレクトリ」とは、ホームページの HTML ファイルを格納する場所のことで、ドキュメントを保存する「フォルダ」の事です。

今回の講習では、「あなたの名前」というフォルダを作り、そこを各々のホームページ専用のディレク

トリとします。この「あなたの名前」は半角英数字で記入してください。

その中に講習で作成するデータを保存していきます。

2) 作業の流れ

まず、テキストエディタ（以下、メモ帳で統一します）上で原稿を作成します。この原稿を「タグ」と呼ばれる HTML 化する言葉を使って飾り付けていきます。でき上がったものをブラウザを使って開くことで、どのように表示されるのかを確認することが出来ます。

1. メモ帳を開きドキュメントを作成する。

メモ帳を開いて"Hello World"と書いて下さい。

2. ファイルを保存する。

これを、"index. html"というファイル名で保存して下さい。

3. ブラウザーで結果を表示してみる。

ブラウザを立ち上げて、コマンド："Open File"でファイル"index. html"を表示して下さい。

Hello World

とブラウザ画面に表示されます。

この、1~3の繰り返しによって、ホームページのレイアウトを決定していきます。

・簡単な HTML ファイルを作る

ホームページを作ると言うことは、HTML ファイルを作ることとイコールです。メモ帳を使いブラウザで表示できるファイルを HTML ファイルといいます。この HTML ファイルは、メモ帳の書類に名前を付ける際、

XXX. html

と言う名前で保存するだけのものです。（ポイント）以降に html という名前を付けることでブラウザはそれがホームページであると認識します。

先程確かめたように、メモ帳に文字を書き、それを XXX. html という名前で保存することによりブラウザで表示されますが、メモ帳に以下の様な記述をしてみます。

html

title ホームページの練習 / title

これはホームページの練習です。

```
/html
```

上記をメモ帳に書いた後、このドキュメントに index.html という名前を付けブラウザで表示させてみてください。どのように表示されたでしょうか。

ブラウザの上を見てみましょう。

「ホームページの練習」

という表題が表示されていますね。これは、メモ帳に title と /title という 2 つの「タグ」で「ホームページの練習」という言葉を囲んだことによるものです。

タグには

- ・開始タグ
- ・終了タグ

があり、終了タグは開始タグに / (スラッシュ) を入れたものです。

開始タグと終了タグには含まれた言葉が、各々のタグが持つ命令に準じたレイアウトで表示される訳です。

さて、もう一度先程の記述を見てみましょう。

```
html
```

```
title ホームページの練習 /title
```

これはホームページの練習です。

```
/html
```

まず、html という開始タグがあり、ここから HTML の記述が始まりますよ、という指示をしています。続いて title という開始タグがあり、ここから終了タグ /title までが、ブラウザのホームページの表題として表示されます。

そして、本文に当たる「これはホームページの練習です」という文字があり、最後に終了タグ

```
/html
```

 で HTML が終わることを意味しています。

タグの書き方の決まりごととして、

```
開始タグ1 テキスト /終了タグ1
```

と言う具合に、テキストの両サイドに来るタグは同じ物でなければいけないという約束ごとがあります。もう一度先程の記述を確認してください。

```
html
title ホームページの練習 /title
これはホームページの練習です。
/html
```

ホームページは `html` というタグで、ここから HTML の記述が始まりますよ、という指示をしています。ホームページの記述は必ず `html` で始まり、`/html` で終わります。

`html` と `/html` に挟まれた他のタグやテキストがホームページの内容ですよ、という意味なのです。

それでは、以上のことを踏まえた上で制作に取りかかっていきましょう。

・テーマを決定する

ホームページ作りは技術的には全く難しいものではなく、一つの規則を覚えてしまえばワープロを操作するのとほとんど変わりなく作ることが出来ます。

ここでは、「あなたの履歴書」をインターネットで公開し、企業を始めとする各団体にあなた自身をアピールし、仕事をさせていただくことを目的としたホームページを作っていきます。あなたはホームページ制作業を業とし、自分の履歴と共に、自分自身の出来ることをアピールしなければなりません。中途半端な内容だと、誰もあなたのホームページを見ては下さらないでしょう。

あなたの名前は何かいい、どんな仕事をしたいかと思、どんな技術を磨いているのか、A4の原稿を入力する際、何分かかるのか。また、どのようなソフトを使うことが出来、どんな得意業を持っているのか。書かなければならないことは山ほどあります。

ホームページとは、Windows とか Mac とか、UNIX、といった全く異なるプラットフォームで同じ様に見える書き方の一つの手段に他なりません。ですから、タグを覚えるといったことは、実はあまり重要なことではないのです。

あなたが世に何を問いたいのか。何を表現したいのか。それらを効果的に見せるためには一体どうすればよいのか。一番大切なことは、美しいホームページでも、綺麗で丁寧なホームページ作りのテクニックでもなく、あなたが発信して行くメッセージなのです。

第一回目の講習は「テキストの作成です」

あなたの自己紹介、自分で書けるだけの自分のことを、正確に、かつ整理して書いてください。以下のタイトルでテキストを作成してください。また、それぞれ次の名称で保存してください。

1. 名前を始めとする個人情報 parsonal. html
2. あなたのパソコン使用歴、及び使えるソフト、出来る仕事 job. html
3. あなたの趣味 hobby. html
4. あなたの信念・仕事に対する理念 concept. html
5. あなたの将来の展望 vision. html

この、5つの情報をそれぞれを1つのファイルとし、全部で5枚作成し「あなたの名前」というフォルダ（半角英数字）の中に保存してください。

この5つのテキストが完成してから、実際のホームページとして作成していきます。

繰り返しますが、どんな細かい事柄も書き漏れがないよう、真剣に詳細に吟味してテキストを作ってください。

各々のテキストが完成したら、一つ一つのページを飾っていきます。

第2回講習

今回はホームページの基礎となるテキストを書いていただきました。

テキストの中味はご自身が伝えたいと思うことをご自由に書いて頂きましたので、次に進みたいと思います。

ひとつ、ホームページ用のテキストを作成する際に使ってはいけない文字があるのです。

前回作成した hobby. html をご覧ください。この中で

長距離ドライブ

スポーツ観戦

ビデオ

としています。この中の という文字は、windows という機種に依存する文字なので、他のプラットフォームでは表示できません。ちなみに Macintosh 環境下では、それぞれ、日、月、火、と表示されてしまいます。ですから、

・(数字)等は(カッコ、数字、カッコ閉じる)と入力する必要があります。

その他、株式会社、有限会社の場合も（かっこ、株、かっこ閉じる）という様に入力します。
曜日、単位記号等も同じ様に入力しなければなりません。

キロメートルは km（半角英数字の k と m）あるいはカタカナでキロメートル
平方メートルは m2（半角英数字の m と 2）あるいはカタカナで平方メートル
等です。

次に、テキスト中の英語表記ですが、特に企業のページを作成する場合は半角英数字で入力してください。

Shine を Shine という具合です。

数字に関しても 1 2 3 を 123 という具合です。

企業のような「専用線環境」でのインターネットの使用は数字をブラウザから取り込み、汎用性を高くすることと、123 や Shine は 2 バイト文字ですので、1 バイトで書く必要があるためです。

テキスト入力時に上記のような一連の文字は、「変換させずに」入力する習慣をつけることで解決できるかと思います。変換時に機種依存の文字になってしまうことが多いからです。

数字やアルファベット等をグラフィックとして扱う場合はこの限りではありません。

講習 1. リンク

現在、講習用のホームページを

<http://www.cojp.com/zzz/>

という URL で閲覧できるように設定しています。

web の仕組みとして、zzz/ という URL をブラウザで指定すると、

必ず index. html を探して表示させる、というのがサーバープログラムのお約束になっています。（一部のプログラムでは default. html の場合もありますが、本講習では index. html として進めていきます。）

上記の URL の場合、zzz というディレクトリの中に index. html をまだ作っていません。

ですから

ブラウザは zzz というディレクトリの中にある全ファイルを画面に表示させます。（実際にアクセスしてご確認ください）

それぞれのファイルのアイコンをクリックすると、各々のファイルに書かれている内容を閲覧できるよ

うになっています。(後述しますが、このルールを覚えておくことは後々役に立ちます。)

それでは index.html を作成して見ましょう。

前回と同じ様に

```
html
title あなたの名前のホームページ /title
```

とし、ホームページを見に来られた方のためにウェルカムメッセージを作成してください。このホームページは何の事について書かれているのかといったことを簡潔にまとめたものをテキストにすると良いでしょう。

次に、body の説明をします。

body というのは文字通り本文 (body) の事ですが、ホームページを制作するタグとしては、以下の情報を持たせる機能を持っています。

1. ホームページの背景色を何色にするのか bgcolor = "#xxxxxx"
2. ホームページで表示するテキストの色を何色にするのか text = "#xxxxxx"
3. リンクを表わすテキストの色を何色にするか link = "#xxxxxx"
4. 訪問した (一度見たページ) 事を教えるリンクの色を何色にするか vlink = "#xxxxxx"
5. クリックした瞬間、リンクボタンを何色に変えるか alink = "#xxxxxx"
6. 背景に何らかのグラフィックを使用するか background = "filename.gif"

これらの情報を以下の様に body の中に含めてしまいます。また、半角英数字であれば大文字、小文字は関係しません。

```
BODY BGCOLOR = "#xxxxxx"TEXT = "#xxxxxx"LINK = "#xxxxxx"ALINK = "#xxxxxx"
VLINK = "#xxxxxx"
```

#で始まる 6 つの x はモニタで色を表示するためのカラーコードです。モニタは R:RedG:Green B:Blue という3色を基準に色を表示します。それぞれの色が 0 から255 の数字を持ち、それぞれが 0 の時は黒、それぞれが 255 の時は白を表示させることができます。

最初の xx が赤情報、次が緑、最後の xx が青の情報をもち、表記は 00 から ff という形になります。

255 の色情報を16 進方に変換するとff になるという解釈です。これをつかって、都合1670 万色の色をブラウザで表示させることが可能になります。モニタ側が 256 色までしか対応していない場合などは、近似値に置き換えられて表示されるので作成側はそれ程気を使う必要はありませんが、場合によっては背景色とテキスト色のバランスが悪くなり、テキストが読みにくくなったりする場合がありますので、作成した後に、一度 256 色で表示させて見るなどの配慮も必要かもしれません。

色表示については、16 進方に変換するソフトをご用意いただいているという前提で進めます。

上記の body タグでホームページの色が決まりました。

タグを並べる順序としては以下のようになります。

```
html
title あなたの名前のホームページ / title
BODY BGCOLOR = "#xxxxxxx"TEXT = "#xxxxxxx"LINK = "#xxxxxxx"ALINK = "#xxxxxxx"
VLINK = "#xxxxxxx"

テキスト

/body
/html
```

index. html と同じように前回作ったそれぞれの html 書類にも同様の処理を施してください。

次に、index. html から、各々のページへリンクできるようにします。

各々のページへの行き先は、どのように表記すれば良いのか考えて見ましょう。

- concept. html (わたしの信念・仕事に対する理念)
- hobby. html (わたしの趣味)
- job. html (パソコン使用歴、及び使えるソフト、出来る仕事)
- personal. html (名前を始めとする個人情報)
- vision. html (わたしの将来の展望)

リンクは a タグを使います。アンカータグといいます。英語におけるアンカーとは、錨の事なのですが、一般的には、TV 等のメインニュースキャスターの事を「アンカー」と言います。放送局のスタジオが index. html だとすれば、中継先は「リンク」に当たるものです。このように考えると、リンク

する際に、キーワードの様な物を持たせた上で「次のページ」を紹介する（リンクする）手法が必要かも知れません。

リンク href と name

a には基本的に2つの属性があります。それが href と name です。

href は行き先（参照先）、name は参照される箇所の名前です。ですから、

a href="concept.html" というのは「concept.html を参照してください」という意味になります。タグの終了は /a で

a href="concept.html" と /a の中に挟まれた言葉をクリックすることによって concept.html を参照できるようになります。

a href="concept.html" わたしの信念・仕事に対する理念 /a をご紹介しています。

の様に記述すれば、「わたしの信念・仕事に対する理念」の部分が前出の body で指定した link="#xxxxxx"の色で表示され、ブラウザ上でクリックが可能になり、index.html から concept.html の参照が出来ます。

a href="xxx.html" を使い、index.html から各々のページへリンクを作ってみましょう。

name について

name は参照される箇所の名前、と書きました。これについて少し説明します。

ホームページの中の一つの html ファイルの中に「特に紹介したい事柄等」を記述したとします。

長文の記事等の場合、ページの下の方に書かれているテキストは、通常ブラウザをスクロールしていかなければ読むことが出来ません。この様な場合、name を適所に配置することで、より具体的なリンク先を指定する事が可能になります。

a name = text001 ここから text001 と名付けたテキストを書く

a name = text002 ここから text002 と名付けたテキストを書く

この様にテキストを作った上で、例えば同一ページの冒頭に

a href="#text001" text001 のタイトル /a

とすれば、スクロールさせることなく `a name = text001` がブラウザの先頭に表示されます。
html の基本ルールとして 開始タグ と /終了タグ という具合にすとなっていますが、name の場合は終了タグは必要ありませんので注意してください。

別のページから name を参照する

name は別のページからもリンクが可能です。xxx. html の `a name = text001` に yyy. html からリンクを張りたい場合は、yyy. html 上に以下のように記述します。

```
a href = "xxx. html#text001"
```

ご覧いただければ分かるように、「そのまま」です。 `a href =` で、xxx. html 中の「#」text001 を参照します。と書くだけです。「#」をつけ忘れないように注意してください。

==== Check!! =====

もし、リンクがうまく機能しない場合

1. `a href = "xxx"` という「"」を前後に正しくつけているか？
 2. `a name = xxx` の場合だけ、「"」は必要ない。
 3. name へリンクする際に「#」を必ず付ける。
 4. `a href = " " ~ /a` で終了タグを付ける。
 5. `a name = xxx` には終了タグはいらない。
-
-

違うディレクトリへのリンク

違うディレクトリへリンクする場合「相対パス」でリンクを指定することが出来ます。

- ・同一階層の別のディレクトリへリンクさせる場合

```
a href = "dirname (ディレクトリの名前) / filename. html"
```

- ・一つ上のディレクトリへリンクさせる場合

```
a href = "../ filename. html"
```

- ・二つ上のディレクトリへリンクさせる場合

```
a href = "../../ filename. html"
```

- ・一つ上の別のディレクトリへリンクさせる場合


```
a href = "../xxx / filename. html"
```

等です。これに対し、他の人が作ったホームページなどへリンクする場合は「絶対パス」を使います。絶対パスとはそのものズバリの URL と解釈して良いです。

```
a href = "http: / / www. yahoo. co. jp" Yahoo へのリンク / a
```

今回の講習ではこの「リンク」を徹底的にマスターしてください。ホームページの見栄えがどれほど美しくても、リンクが正しく配置されていないと全く役に立たないページになってしまう為です。

次回はそれぞれのページを様々なタグを用いて体裁を整えていきます。

第 3 回講習

では、今回はタグを使って体裁を整えていきましょう。

その前に、前回頂いた HTML のチェックから。

1. リンクが一つ無効です。

index. html から play. html へのリンクが切れています。これは、index. html の中に

```
a href = "maeda 2 / play. html" となっているためですね。これは
```

maeda 2 の中の play. html へリンクします、という意味ですから同じディレクトリに置いた play. html にはリンクして行きません。

2. play. html について

play. html の title タグの終了タグに /title スラッシュ記号が抜けています。

```
/title が抜けると、ページの表示は
```

```
http: / / www. cojp. com / 1210-2 / play. html
```

のようになってしまいます。オリジナルの play. html で表示させたい文字は

```
test1
```

ですね。スラッシュ記号の抜けなどには注意しましょう。

```
name については、把握が出来たものと思います。これで、違うページ、同じページの違うスレッ
```

ド、いずれへのリンクも OK です。

そこで、index.html の連絡帳へのリンクについて少し追記します。これは、ブラウザ関連のバグなのかどうなのかながい間調査を続けているのですが、a name タグを使う際、うまく機能しない場合があります。a name を HTML の後半で使った場合、name で指定されたスレッドまでリンクが到達せず、思惑通りの表示が得られないという事です。

これを解決する現在分かっている方法は、body 部分に、何らかの background.gif を入れる、という方法です。

a name として指定する機会があった際は现阶段では下記のようにしています。

```
body bgcolor = "#ffffff" text = "#xxxxxx" link = "#xxxxxx" alink = "#xxxxxx" vlink = "#xxxxxx" BACKGROUND = "xxx.gif"
```

解説:

ホームページ自体の背景は「白」にしたい。で、bgcolor を #ffffff とし、背景色は白になります。そして、xxx.gif という縦横 1 ピクセルの白い画像を作り、それを background として張り付けます。こうすることによって、HTML が続く限り xxx.gif が表示されることになり、name へのリンクが完全な形で表示されます。残念ながらその理由は定かではありません。

では、全てのページに改行や見出し等見やすくなるように飾っていきます。

現在の前田さんの HTML ファイルは、完成時のイメージをテキスト上で表現していらっしゃいますね。これは非常に大切なことです。これにタグを付けて行くことで、最終的な表示のイメージを頭の中に描いておく事が出来るからです。

ただし、注意しなければいけないことがあります。テキストの体裁を整える際に「全角のスペース」は、一見空白ですが、ブラウザでは文字として認識されます。ですから、例えばホームページで使う原稿だけを書く仕事などの依頼があった場合は、あくまでもテキストの中でスペースによる体裁を整えてはいけない、ということです。

例、

開催日時：19xx 年 xx 月 xx 日

(雨天決行)

これは、(雨天決行)の前にスペースを入れて体裁を整えています。これは、html 化する際非常に繁雑になりますので注意してください。日本語環境ではスペースは空白ですが、他言語環境ではスペースは

何らかの文字になります。

今の段階で HTML を入れていないので当然といえば当然なのですが、job.html をブラウザで表示させたときのような状態が、タグを挿入しても出てしまう場合があるので十分気を付けてください。

基本的に、前田さんが index.html で記述された html を使うだけで、十分ホームページ自体は完成出来ます。

ここで、考えなければいけないことは、ホームページを使っただけに「言いたいこと」が伝わるレイアウトです。絶対に見ていただきたいことは当然何らかの方法で「強調」します。補足説明は大きい文字で書くことはまずないと言って良いでしょう。こんなふうに、テキストを見ながら使うタグを決定していきます。

注意点

- ・見出しタグの使い方

H1 H2 等が「見出しタグ」にあたります。これは、事実上見出しとしての使い方以外には使わないほうが良いです。ブラウザのデータ読み込みに左右します。つまり、遅くなるのです。

文中で文字のサイズを変更したい場合は FONT SIZE = x を使ってください。

- ・ P を使って適度に行を開ける

P とはパラメーター、つまり段落を意味します。紙に印刷された文字はともかく、モニタごしに見るテキストは行を追うのが辛い場合があります。ですから、文章の中の適度な段落ごとに P タグを挿入し、間隔を開けることによって読みやすさを心がけてください。

- ・ BR タグは好きに使える

HTML デザイナーによって、この見解は様々ですが、僕の場合「よし」と考えています。なぜならデータ量を最小限にとどめることが出来るからです。BR という都合 4 バイトの文字だけで改行が成立する訳ですからレイアウトを整える基本的なタグと捉えることが出来ます。

- ・クリックする所を羅列する場合はリストタグを使う

`a href = "personal. html" 名前を始めとする個人情報 /a をご紹介しています`

`a href = "job. html" パソコン使用歴、及び使えるソフト、出来る仕事 /a をご紹介しています`

`a href = "hobby. html" わたしの趣味 /a をご紹介しています`

`a href = "concept. html" わたしの信念・仕事に対する理念 /a をご紹介しています`

`a href = "vision. html" わたしの将来の展望 /a をご紹介しています`

`a href = "maeda 2 / play. html" 遊びの空間 /a をご紹介しています`

このような状態でブラウザに表示させたい場合はリストタグを使うと便利です。リストタグには次のような種類があります。

UL - マーク付きリスト

OL - 番号付きリスト

DL - 解説付きリスト

DIR - ディレクトリー・リスト

MENU - メニュー・リスト

基本的に以下の様に使います。

UL

LI `a href = "personal. html" 名前を始めとする個人情報 /a をご紹介しています`

LI `a href = "job. html" パソコン使用歴、及び使えるソフト、出来る仕事 /a をご紹介しています`

LI `a href = "hobby. html" わたしの趣味 /a をご紹介しています`

LI `a href = "concept. html" わたしの信念・仕事に対する理念 /a をご紹介しています`

LI `a href = "vision. html" わたしの将来の展望 /a をご紹介しています`

LI a href = "maeda2 / play. html" 遊びの空間 /a をご紹介します

/UL

UL は /UL という具合に終了タグを付けなければいけません、その中の LI には終了タグを使う必要がありません。LI は「リストのうちの一つ」を指し、リストの始まりと終わりは UL が受け持つ為です。

上記をブラウザで表示させると

の様なマークがつくと思います。これが、上で説明した「マーク付タグ」という由縁です。このマークの形を変更することも可能です。

UL TYPE = disc

UL TYPE = square

UL TYPE = circle

とすることでどのように表示されるか確認して見てください。

OL

LI a href = "personal. html" 名前を始めとする個人情報 /a をご紹介します

LI a href = "job. html" パソコン使用歴、及び使えるソフト、出来る仕事 /a をご紹介します

LI a href:"hobby. html" わたしの趣味 /a をご紹介します

LI a href:"concept. html" わたしの信念・仕事に対する理念 /a をご紹介します

LI a href:"vision. html" わたしの将来の展望 /a をご紹介します

LI ahref:"maeda2/play. html" 遊びの空間 /a をご紹介します

/OL

次に、OL を使いました。番号付きリストです。それぞれの LI に 1 から始まる番号が表示されます。

数字を変更する事も可能です。

OL START = X

Xには数字が入ります。この数字がリストのスタート番号になります。

OL TYPE = a

リストのタイプを変更します。

ここで指定できるのは、

1 = 数字

a = 小文字アルファベット

A = 大文字アルファベット

= 小ローマ数字

= 大ローマ数字

例えば、大文字アルファベットの E からリストをスタートさせたい場合は

OL TYPE = A START = E となります。

DIR

LI a href = "personal. html " 名前を始めとする個人情報 /a をご紹介しています

LI a href = "job. html " パソコン使用歴、及び使えるソフト、出来る仕事 /a をご紹介しています

LI a href = "hobby. html " わたしの趣味 /a をご紹介しています

LI a href = "concept. html " わたしの信念・仕事に対する理念 /a をご紹介しています

LI a href = "vision. html " わたしの将来の展望 /a をご紹介しています

LI a href = "maeda 2 / play. html " 遊びの空間 /a をご紹介しています

/ DIR

DIR は基本的には UL と同じですが、文章中に小さなリストを作るときなどに使われることが多いようです。 MENU タグもほぼ同じ働きをします。各々の違いは表示させて確認して見てください。

UL OL DL と DIR MENU の根本的な違い

UL OL DL と DIR MENU の根本的な違いは LI のオプション表示の違いです。

以下の例を見てください。

・ UL での LI の使い方

UL

LI TYPE = disk 初期値

LI TYPE = square 四角

LI TYPE = circle 丸

/UL

- OL での LI の使い方

UL

LI TYPE = 1 数字

LI TYPE = a 小文字アルファベット

LI TYPE = A 大文字アルファベット

LI TYPE = 小ローマ数字

LI TYPE = 大ローマ数字

/UL

UL

LI TYPE = 1 VALUE = 5 数字

LI TYPE = a VALUE = 1 小文字アルファベット

LI TYPE = A VALUE = 1 大文字アルファベット

LI TYPE = VALUE = 2 小ローマ数字

LI TYPE = VALUE = 3 大ローマ数字

/UL

それぞれの表示がどのようになっているか確認してください。

少し特殊なリスト DL

DL は上記のリストタグとは趣がちがいます。これは「解説付リスト」です。

他のリストタグは LI を使いましたが、DL は DT と DD を用います。

例、

DL

DT このホームページについて

DD このホームページは練習用ですので、アクセスなさっても何の事か分からないはずですよ。

DT このホームページの作者は

DD このホームページの作者は原口隆史です。練習の邪魔はしないでください(笑)

name タグはパーフェクトです。

1 職業センターでの職業講習の流れについて

職業センターでは、.....続く、

の部分は、

1 職業センターでの職業講習の流れについて p

職業センターでは、....続く、とした方が良いと思われます。

長文のテキストの場合、テキストは5行前後で一度 p タグを挿入し、適切な間隔で間を空けてやると、より読み安くなります。例えば

(5) プレゼンテーション実習について br

OA 機器の操作技能の他にも職場で必要とされる基本的な能力として、コミュニケーション能力、文書作成能力、時間管理能力、情報収集活用能力があります。これらについては、必要に応じてその講習を実施しますが、職業講習受講者全員を対象にプレゼンテーション講習を実施しています。プレゼンテーションとは、贈り物、紹介、発表という意味です。ビジネスの世界でプレゼンテーションというと、自分の意見、考え、企画を相手に正しくかつ印象的に理解してもらうことを目的にした説明会や話し方のことになります。

この講習で皆さんが行うことは、所定の期間で、自分で選んだテーマに基づいて、計画を立て、情報を...

の部分を以下のようにします。

(5) プレゼンテーション実習について p

OA 機器の操作技能の他にも職場で必要とされる基本的な能力として、コミュニケーション能力、文書作成能力、時間管理能力、情報収集活用能力があります。これらについては、必要に応じてその講習を実施しますが、職業講習受講者全員を対象にプレゼンテーション講習を実施しています。プレゼンテーションとは、贈り物、紹介、発表という意味です。 p

ビジネスの世界でプレゼンテーションというと、自分の意見、考え、企画を相手に正しくかつ印象的に理解してもらうことを目的にした説明会や話し方のことになります。この講習で皆さんが行うことは、所定の期間で、自分で選んだテーマに基づいて、計画を立て、情報を...

適切なところでの段落は非常に重要ですので、作成後のプレビューで調整されると良いと思います。段落は p で設定してください。

-
-
- hobby. html
 - personal. html

この html はテキストの内容を考慮すると

ul

li 等のリストタグを使用されることをおすすめします。

(1) 長距離ドライブ br

この一年のルート br

房総一周 br

伊豆半島一周 br

知多半島一周 br

という具合にスペースで調整されているように見受けますが、スペースは日本語環境では空白表示になっていますが、実際には文字として扱われているため、余分なデータとなってしまいます。

-
-
- job. html

hobby. html を job. html に準じた形で作られると有効です。

このリストは見やすく、素敵です。今後、テキストレベルで更に詳しく情報を載せていくことで具体的なアウトソーシングの提案が発生するでしょう。

一日に請けることのできる作業量等を考えた上で価格を表示させると良いかも知れませんね。

-
-
- concept. html
 - vision. html

全体的にインパクトに欠けます。 font size 等を使い、テキストにめりはりを付けられると全体的に引き締まったものになると思います。

前回お送りした講習テキストと重複しますので、前回テキストを見ながら、更にレイアウトを詰めて見てください。

文字コードに関する問題点

文字化けの経験は誰もが有ると思いますが、EUC コードとシフト JIS コードは誤認識しやすく、文字化けの原因となっています。なるべくなら nkf (UNIX,DOS,OS / 2 etc) , qkc (DOS) , ページブラウザ (Windows) などの変換ツールで変換しておく方が良いでしょう。他の OS でもそれらの変換ツールが存在する筈です。

CGI スクリプトでは EUC を使わないとエラーが発生する場合があります。

また、Chimera や Mosaic 等、シフト JIS を変換表示できないブラウザも少数ながら存在します。文字コードはなるべく JIS (JUNET) コードで。

今のところ日本語でページを作る場合は、

ISO - 2022 - JP という文字コードを使い、META タグを使って文字セットを記述しておく

e.g.

```
meta http - equiv = "Content - Type" content = "text / html; charset = iso - 2022 - jp"
```

と記述しておくのがいいようです。

Netscape Navigator の注意

Netscape Navigator では META タグを使って

ISO - 2022 - JP

```
meta http - equiv = "Content - Type" content = "text / html; charset = iso - 2022 - jp"
```

SHIFT JIS

```
meta http - equiv = "Content - Type" content = "text / html; charset = x - sjis"
```

EUC - JP

```
meta http - equiv = "Content - Type" content = "text/html; charset = x - euc - jp"
```

というふうに、文字セットを記述しておく、Document Encoding (文書の文字コードセット) のセッティングに関係なく Auto - Detect で文字セットを判別し表示してくれます。

良く使われる M E T A 情報

・ META タグの置き場所

META タグは必ず title xxx / title の次に置いてください。

記入例

```
=====
title 私のホームページ / title
META.....
body bgcolor = "#xxxxxx" .....
```

META NAME = "generator" CONTENT = "プログラム名"

ドキュメントが何らかのプログラムを使って生成されたことを示しています。例えば、HTML エディターを使った場合などに、そのプログラム名が記述されます。

META NAME = "author" CONTENT = "作者名"

ドキュメントの作成者の名前を示します。

META NAME = "keywords" CONTENT = "keyword, keyword, keyword"

サーチ・エンジンの為のキーワードですが、キーワードが7回以上この中で繰り返されるとそのタグは無視されることになるので気を付けて下さい。

META NAME = "description" CONTENT = "テキスト"

サーチ・エンジンの検索結果にドキュメントが現われる場合、これをサポートしているサーチ・エンジンでは、実際のドキュメントの最初の数行を表示する代わりにこの"CONTENT"に記述されているテキストを表示します。1,000文字程度以内に収めた方が良いでしょう。

META HTTP - EQUIV = "refresh" CONTENT = "n"; URL = http: / / www. cojp. com / "

これはメタ・リフレッシュと呼ばれるものですが、これをサポートしているブラウザでは"CONTENT"に記入された"n"秒後に"URL"で指定されたドキュメントがロードされます。

META HTTP - EQUIV = "expires"CONTENT = "Tue, 20 Aug 1996 14:25:27 GMT"

ドキュメントの終了する期間を示します。もしこのドキュメントへのリクエストが"CONTENT"に記入されているデータよりも後の場合は、ブラウザはキャッシュに入っているコピーではなく、新たにサーバーからロードすることになります。

他のホームページへのリンクについて

他のホームページの URL へリンクを張る場合は、ファイル名を正確に記述してください。

例えば、index. htm と index. html は Macintosh や Windows ではどちらも同じファイル扱いですが、Unix システムを使うサーバーではこの二つは別ファイルの扱いになり、例えばリンクがうまく動かないという事が起きます。

コメントについて

HTML ドキュメントにブラウザ画面には表示したくないテキスト（コメント）を書きおきたい場合は、コメント・ディクラレイション（comment declaration）を使用します。例えば、

```
!-- このドキュメントにエラーを見つけた方は是非連絡して下さい。 --
```

というふうにコメントを書きおくと、ブラウザ画面には表示されませんが、ソースコードで読むことができます。

このコメントを書く場合は、次の四つのキャラクターで始まり、

```
!--
```

次の三つのキャラクターで終わる。

```
--
```

というふうに覚えて下さい。

コメントにはファイルに関する注意書きなどを記述するケースが多いようですが、ブラウザによっては、HTML のタグを記述することも出来ます。コメントに入ったタグは無視されますから、ドキュメントの editing などの際にも使えます。

ホームページの制作代行などでは、立ち上げの際にのみ制作を依頼され、更新などはお客様が直接なさる場合が多々有ります。そういった場合に

変更してよいデータとそうでないデータ

を、このコメントによって HTML 内に書き込んでおくのが一般的です。

```
!-- ここからしたのデータを自由に変更してください。 --
```

```
データ
```

```
データ
```

```
データ
```

```
データ
```

```
!--ここまで--
```

というように使うとよいでしょう。

第 5 回講習

前回の文字コードについて少し追記します。

ブラウザやメールに「文字コード」を設定するメニューがあると思いますが、通常ユーザーは、

自動識別（自動判別・Auto-Detect）

という設定でホームページをご覧になっています。これはページを作成する側のシステムが Windows, Mac, UNIX 等といった様々なプラットフォームがあり、それぞれのシステムが使う日本語の出力コードが違う為に、同じ日本語でありながら文字が化けてしまうという現象が起こる事にあります。ですからブラウザ側である程度までは対処できるようになっています。

日本語のコンピュータ上の規格は JIS（通常の工業規格です）によって定められているのですが、特殊文字、「`（株）`や`（1）`といった括弧つき文字、ローマ数字などです。」に関しては非常に曖昧なのが現状で、どうしてもブラウザ側で対処するには限界がある訳です。

ですから、ホームページを作成する側が、ブラウザに対して「これから記述する文字は `××` というコードを使って表示させなさいよ」

という命令文を HTML 文書に書いておくことで、どの種類のコンピュータからでも正しい日本語が表示できる、という形になるのです。ただし、前述した特殊文字は別名「機種依存文字」といって、違う種類の OS（オペレーティングシステム）で再現されない文字に当たりますので使うことは出来ません。

メールなどのやり取りをする際にも Win - - Win では読める文字でも、Win - - Mac では化けてしまうということになってしまいます。

日本語のコード

UNIX 系の機種では通常 EUC コードが使われ、Mac と Windows では、シフト JIS コードが使われていますが Mac と Windows のシフト JIS コードは「似て非なるもの」という少々ややこしいのが現状です。これは、例えば「あ」と言う日本語をコンピュータ上で生成するプログラムのソースコードが違うという事で、UNIX の文字生成プログラムは Windows には分からないし、逆も分からない、という事です。(実際には文字生成プログラムを解析して読めるようになっていますが 100 パーセント互換ではないという意味)

前回のテキストの

今のところ日本語でページを作る場合は、

ISO - 2022 - JP という文字コードを使い、
META タグを使って文字セットを記述しておく

e.g.

```
meta http - equiv = "Content - Type" content = " text / html; charset = iso - 2022 - jp"
```

と記述しておくのがいいようです。

Netscape Navigator の注意

Netscape Navigator では META タグを使って

ISO - 2022 - JP

```
meta http - equiv = "Content - Type" content = " text / html; charset = iso - 2022 - jp"
```

SHIFT JIS

```
meta http - equiv = "Content - Type" content = " text / html; charset = x - sjis"
```

EUC - JP

```
meta http - equiv = "Content - Type" content = " text / html; charset = x - euc - jp"
```

というふうに、文字セットを記述しておく、Document Encoding (文書の文字コードセット) のセッティングに関係なく Auto - Detect で文字セットを判別し表示してくれます。

=====

という部分の記述は作成側がホームページを見る人が何もせずに正しい日本語表示をしてあげることが

出来る記述です。通常のホームページの場合は

```
meta.....charset = iso - 2022 - jp”
```

あるいは

```
meta.....charset = x - sjis”
```

を使用し、CGI 等でホームページを自動生成する際には、場合によって

```
meta.....charset = x - euc - jp”
```

を使わなければいけない状況がある、という事です。インターネットの www サーバーは様々で、一口に CGI といってもプログラミングの種類が多い為、文字コードを指定しておかないと正しく表示できない場合があるばかりでなく、ネットワークを破壊してしまう恐れがあるのでなかなか講習の対象になりませんし、また、出来ないというのが現状です。海外のレンタルサーバ等で万が一自分の作った CGI プログラムによってネットワークを切断してしまった場合、信じられない額の賠償請求を起こされる場合もありますので気をつけてください。余談になりました。

前回のメタ情報とは。

この META 情報とは、HTML 文書を置いたサーバーに対してその文書のリクエストがあったときに「どういった表示方法をさせるか？」といった事を決めてやる命令文の事を指します。

例えば、

```
META NAME = "keywords"CONTENT = "keyword, keyword, keyword”
```

サーチ・エンジンの為のキーワードですが、キーワードが7回以上この中で繰り返されるとそのタグは無視されることになるので気を付けて下さい。

というタグを前回紹介しましたが、これはたとえば GOO (<http://www.goo.ne.jp/>) で福祉に関する検索を行うとします。その際に keyword, のところに「福祉に関する x x の情報」と入れておけば、誰かが検索した場合に検索結果として表示される事になり、アクセスアップに繋がるという事です。

この META 情報は必ずしも入れないといけないものではありませんが、必要に応じて挿入しておくことで例えば以下の様なことが出来ます。

```
=====
```

前回のテキストに追加情報を入れてあります。

```
META NAME = "generator"CONTENT = "プログラム名”
```

ドキュメントが何らかのプログラムを使ってゼネレートされたことを示しています。例えば、HTML

エディターを使った場合などに、そのプログラム名が記述されます。

例えばパソコンのソフトメーカーやシェアウェア作家といった人達が自分の作ったプログラムがどれ位使われているかといった事を知るために、市販されているホームページ作成ソフト等には必ず挿入されます。大勢で共同作業をする場合などは、依頼者から、これを消す様に、といった指示が出る場合があります。

META NAME = "author" CONTENT = "作者名"

ドキュメントの作成者の名前を示します。

僕のような仕事をしている人間には有難い仕組みなのですが「勝手に宣伝できるため」逆に依頼主からは入れないように指示を受けることがあります。

META NAME = "keywords" CONTENT = "keyword, keyword, keyword"

サーチ・エンジンの為のキーワードですが、キーワードが7回以上この中で繰り返されるとそのタグは無視されることになるので気を付けて下さい。

前述したので省略します。

META NAME = "description" CONTENT = "テキスト"

サーチ・エンジンの検索結果にドキュメントが現われる場合これをサポートしているサーチ・エンジンでは、実際のドキュメントの最初の数行を表示する代わりにこの"CONTENT"に記述されているテキストを表示します。1,000文字程度以内に収めた方が良いでしょう。

goo 等で検索した場合に検索結果に反映される文字の事です。必ずこういう紹介の仕方をしたい、という明確な目的がある場合は特に有効です。

META HTTP - EQUIV = "refresh" CONTENT = "n"; URL = http: / / www. cojp. com / "

これはメタ・リフレッシュと呼ばれるものですが、これをサポートしているブラウザでは"CONTENT"に記入された"n"秒後に"URL"で指定されたドキュメントがロードされます。

例えばプロバイダーを引っ越す時など、昔の URL から新しい URL をサーチエンジン等に一から登録し直すのは大変な作業です。そういった場合にこのリフレッシュを入れておけば自動的に新しい URL にリンクすることが出来ます。また、ちょっとだけ情報をコマースのように見せたい場合など紙芝居的な効果を演出することが出来ます。

これに関しては <http://www.Upload.ne.jp/at/at/> にアクセスして左下の About us という所を

クリックしていただければお分かりいただけると思います。

```
META HTTP - EQUIV = "expires" CONTENT = "Tue, 20 Aug 1996 14:25:27 GMT"
```

ドキュメントの終了する期間を示します。もしこのドキュメントへのリクエストが"CONTENT"に記入されているデータよりも後の場合は、ブラウザーはキャッシュに入っているコピーではなく、新たにサーバーからロードすることになります。

言ってみればデータの賞味期限というか有効期限を指します。今回サーチエンジンの goo をかなり引き合いに出しましたが、検索結果を見た後何処かのページにアクセスして見ると、goo の検索文章と違う言葉が出てくる場合があります。あと、それぞれの検索結果の右端に日付が表示されていますが、検索結果と実際のページの内容が違うのも、goo のサーバーがキャッシュにデータを記憶させているからに他なりません。

このタグを使うと goo のデータも更新されます（ただしエラーが多いのであまり役には立たないようですが）

!-- このドキュメントにエラーを見つけた方は是非連絡して下さい。 --

というコメントも前回書きました。goo は全文検索ですからこれも読み出します。試しに goo で Takafumi Haraguchi として語順を保持のオプションをつけて検索して見て下さい。裏業ですので闇雲に使うことは出来ませんので気をつけてくださいね。

フレームの表示について

ここに、僕が作ったフレーム対応の HTML があります。これを解析することでフレーム内に表示させて見ましょう。

以下をカットアンドペーストして作成の参考にして下さい。

意図的に改行させていません。

ここから

```
html
```

```
head
```

```
title The AT Online / title
```

```
META HTTP - EQUIV = "Content - Type" CONTENT = "text / html; charset = x - sjis"
```

```
/ head  !--ここまでがお約束のタグ--
```

!--ここからフレームが始まります。最初はフレーム全体の設定--

```
frameset rows = "68, * , 35" border = "0"
```

!--まず、rows でフレームの高さを設定します。一番上は 68 ピクセル、一番下が 35 ピクセルで余りをメインに割り振りたいと思うので * マークにします--

```
frameset cols = "130, * " border = "0"
```

!--次に cols で横の設定をします。左に 130 ピクセルを使い右は余りを割り振ります。ここでいう order=0 とはフレームの枠を表示しませんよ、という意味です。これで上下 3 段、左右 2 列のフレームが完成しました--

!--次はそれぞれのフレームに表示させるページを指定します。記入の順番を間違えると正しく表示されませんよ。 --

```
frame src = "box. html" border = "0" name = "box" noresize scrolling = "no"
```

!--まず表示させる順番です。これは上の左。このフレームには box という名前をつけます。タグの中に noresize scrolling = no とあるのは文字通りスクロールバーを表示させないしサイズも固定だよ、という意味です--

```
frame src = "rogo. html" border = "0" name = "rogo" marginwidth = "0" marginheight = "0"noresize
```

!--次に上の右、ホームページのロゴをいれたいと思う場所です。rogo と名付けサイズも固定したいですし、きっちりとロゴを置きたいので縦横のマージンもとりたくありません。ということでマージンサイズをゼロにします。これで最上段の表示は指定出来ました--

```
 / frameset
```

!--ということで、一旦クローズタグを入れて完成--

!--更に 2 段目の左右に表示させる命令を書きますのでフレームをセットします--

```
frameset cols = "130, * " border = " 0 "
```

!--2 段目のフレームの左右は最初の設定でしましたが、すぐ上でクローズタグを使いましたので再設定してやらねばいけません--

```
frame src = "ent. html" border = "0" name = "tate" noresize
```

!--左側の設定です。130 ピクセルという細いスペースなので tate という名前にしました。ここもサ

イズを変えたくないなのでノーリサイズとします。 --

```
frame src = "gate. html" border = "0" name = "main" marginwidth = "5" marginheight = "5" noresize
```

!--ここがメインのコンテンツをお見せする場所なので main と名付けました。前後左右にそれぞれ 5 ピクセルくらいはマージンをとって、上のロゴや左に置く予定のメニューと文字が干渉しないように置かなければいけません--

```
/ frameset
```

!--これで 2 段目が設定出来ましたので閉じます--

!--最後 3 段目です。もう一度左右の設定を呼び出します--

```
frameset cols = "130, * " border = "0"
```

```
frame src = "office. html" border = "0" name = "mini" marginwidth = "0" marginheight = "0" noresize scrolling = "no"
```

!--ここには読者の方が作者を知りたいと思った時の仕掛けを作ろうクリックすると住所が表示されるし、小さいので名前は mini にしよう。サイズもマージンも固定--

```
frame src = "copy. html" border = "0" name = "copyright" marginwidth = "0" marginheight = "0" noresize
```

!--最後、やはり著作権でしょう copyright と名付けフレームは固定です--

```
/ frameset
```

!--これで全てのフレームが完成しました。あとはそれぞれ src で指定した HTML を作るのみです。これらは <http://www.uproad.ne.jp/at/at/> からダウンロードすれば正しく表示されますので試して見て下さい。コメントをしっかりと読めば原理が分かると思いますが、さてどうでしょうか？パズルを解くつもりで解析して見て下さい--

```
/ frameset
```

!--おっと、ここでもう一回「フレームは終わりだよ」とブラウザに教えてやらねばなりませんでした。追加のヒントですがフレームには必ず名前をつけてあげましょうね--

```
/ html
```

第6回講習

こんにちは。だいぶフレーム頑張られたようですね。

今回は、フレームを詳しく検証していきます。

- ・フレームのホームページを作る前に

フレームのホームページを作る前に最初に考えなくてはならないことは、「統一されたインターフェイス」です。ここでは、フレームの一つ一つを「窓」と呼ぶことにします。

ホームページには何らかのテーマが必ず存在します。当然テーマに沿ったコンテンツは、見る人の視線の中心にくる必要があります。これを一番大きな窓に配します。

それぞれのテーマに沿ったメニューボタンは様々な構成で置くことが可能です。メインの窓の上下左右自由に置くことが出来ますが、ここで思い出していただきたいのが「テレビのレイアウト」です。現在は殆どリモコンで対応しているため、昔のテレビを思い出してください。

- ・チャンネル
- ・音量
- ・そして電源

これらは、テレビを見る際に必ず触らなければいけない部分でした。ですから昔のテレビは、ブラウン管の左右、あるいは下部に配される場合が殆どでした。チャンネルを調整すると、当然その結果がブラウン管に反映されます。チャンネルを替える際に、腕や身体でブラウン管をさえぎらない様に工夫がなされていた訳です。

フレーム対応のホームページの優秀なサイトは、必ずこの「テレビの原理」を応用しているのです。

- ・クリックする場所を出来るだけ一箇所に集中させる

上記のテレビのチャンネルと同じですね、根本的なボタンを出来るだけ見る人に分かりやすく配置して作る事で、コンテンツに集中させる事が出来ます。クリックする場所を探すという行為で、思考・集中力を停止させない配慮をし、快適に見ることが出来る環境を作ります。

- ・動きの中心はブラウン管に反映させる

テレビですから、チャンネルはいつも基本的に固定です。チャンネルを替える（クリックする）事でブラウン管の表示が替わるという出力を行います。ここで、スクロールする以外の視線の移動を最小にと

どめることで、見る側のストレスを軽減する工夫をします。

ですから、メニューのリンクの指示は必ず

```
a href = xxx. html target = "メイン画面、つまりブラウザの名前"
```

とする必要があります。前回のサンプルフレームで、それぞれの窓に名前をつけました。あの名前が target の指定先になります。これでテレビの原理は網羅出来ることになります。

・それぞれの窓の役割分担を明確にする

サンプルフレーム（私のホームページ <http://www.cojp.com/at/at/>）では左側にボタンを集めました。最上段はイメージを表示するだけのために作った窓です。ですから、ホームページ全体のアクセント、あるいは相互リンクのお約束などで表示させなければならない画像を配しました。（これはボタンとは直接関係はありませんが、必要な事です）

その下がチャンネルに相当する部分、いわゆるメニューです。ここも基本的に替わることはありません。

そして最下段、ここをクリックすると右上の窓が反応します。（それも 15 秒間だけです）

この三つの左側の窓はボタン・お約束画像表示の役割を果たす事がこのホームページ全体の中での約束ごととして予め考えられた事なのです。

物理的には 6 つの窓がありますが、基本的には左がボタン・右が画面という役割をそれぞれ担っている訳です。

ただ、それだけではホームページが常識的すぎて結果的に面白くならないのかもしれないかもしれません。そこでメイン画面にあたる右側も、同時に三つに分けることで視覚効果を高めようと試みました。

左の最下段をクリックすると右の最上段に 15 秒間だけ私の事務所の連絡先が表示される様にしました。普段はホームページのタイトルロゴだけが表示されており、

このホームページは「なんというページなのか」

という情報をいつも視覚として提供する事で、見る側に「タイトルを正しく認識して貰う」という明確なコンセプトを打ち出すことが出来ます。

さらに、ホームページ内には多くのコンテンツを格納しますので「どの記事（コンテンツ）」が見る人の興味を引き出すか、という問題があります。見る側が余程の明確な目的を持っていない限りは「ページの作者より中味」が勝負になります。興味深い記事を見つけた瞬間に

「一体誰が提供しているのだろうか？」と思う場合、「このページの作者について」というリンクをたどり、ページ全体が「作者情報」に替わってしまったとすれば、それ迄読んできた記事の流れを止めてし

もう事になり、やはり思考が中断します。「ホームページのタイトルとそれを作った作者」という関係は表裏一体ですから「タイトルの裏に作者情報を入れる」という物理的な出力が可能なのも、ホームページの情報を充実させる手段ということが出来るかもしれません。

この様に、フレームを作る際に事前に「視覚効果」「出力効果」を決定しておく事で、より整合性のあるデザインと記事を作り上げていくことが出来る様になっていきます。

・窓の中に入れるデータ（HTML）は計算して作る。

フレームは、その frameset の中で左から（あるいは上から）順にサイズを決定していきますので、中に入れるデータもそのサイズに合わせる必要があります。例えばフレーム内の一つの窓を 100 ピクセルで表示させ"A"という名前をつけたとします。

さらにその"A"を noresize（サイズを変更不可）とした上で"A"の中に 120 ピクセルの画像は入りません。さらに、scrolling = no とした場合はスクロールも出来なくなるので、"A"の中に置いたテキストは読む事さえも出来なくなってしまいます。

そこで、table テーブルを使った HTML を使うという事で対応すると横幅の問題が解決出来ます。

サンプル=====

```
html title Sample / title
body bgcolor = " #ffffff"
center
!--ここからがテーブル--
table border = 0 cellpadding = 0 cellspacing = 0
tr td font size = 2
```

いよいよ長野オリンピックが始まりましたが、早速スピードスケート 5000m では世界記録を更新する選手が続々と登場し、莫大な建設費をかけて作られた「エム・ウェーブ」も、優れたリンクであることが証明された形となり、関係者は胸を撫で下ろしたことだろう。

P

しかしながら、オリンピック閉幕後、これらの施設が有効利用されないであろう事は日の目を見るより明らかであり、県は Microsoft が福利厚生施設として買い取ってくれるよう、長野県知事を米・シアトルに派遣し、交渉を試みる予定であるという。

```
/ font
/ td / tr
```

/ table
/ center
/ body
/ html

====ここまで

この様に table で囲む事によってテキストを細く、または広くする事が可能で、これを応用する事で、小さなフレームの窓の中で全ての記事を読ませることも出来るようになります。上記を切り取ってブラウザで表示させて見て下さい。

これを、フレーム内で表示させたい場合は、center を取り、フレームの窓のサイズを 120 ピクセル程度に設定しておくとおちょうど良いサイズで表示できると思います。

使えるターゲットタグ

TARGET = " -blank"

新しいブラウザが開いて、その後ろに元のブラウザが残る。

TARGET = " -self"

同じ窓に表示。TARGET を指定しない場合はこの設定になっています。

TARGET = " -top"

元のブラウザが消え、新しいブラウザが開く。

前回フレーム内にそれぞれのデータを表示させることが出来るようになりましたので、さらにこれらの命令を使って「ここを押せばあそこが替わる」等、ホームページをどの様にナビゲートすればより見やすくなるか、試行錯誤を繰り返すことが大切です。

フレーム内にデータを表示させることさえできれば、7 割完成したも同然です。是非、TARGET をマスターして下さい。

ファイル添付について

現在メールにてファイルを添付する形でデータを頂いていますが、データを添付する際に一つのフォルダの中に入れて頂けると助かります。

第7回講習

今回送って頂いた HTML ですが、mframe. html が添付漏れでしたので、前回のものを利用して拝見しました。 target 指定も大部分把握されてきたようですね。あとは、index. html の中に「フレームで見る」として、mframe. html のリンクをお願いします。それから、tate の中のコンテンツにも a href = xxx をつけてリンクを反映させましょう。

今日のテーマは様々な大きさのモニタでの見え方を統一させる、です。

既にご存じのように、インターネットにつながれたパソコンの種類は多種多様で、全てのパソコンで同じインターフェイスを実現させるのは今の所不可能です。しかしながら極力近づけることは可能ですのでその方法を探っていきましょう。

モニタの大きさ、というのは画像の解像度のことを差します。モニタの画像の表示の原理といえば、一つ一つのピッチ（点）を組み合わせるとして線を表示し画像を表示するといった点描にあります。この点をモニタの中でどれだけ表示することができるか、というのを「解像度」という単位で表わすことになっています。

一般的なテレビでは 640 × 480 ドット（ピクセル）

古いパソコンは 640 × 480 または 512 × 384 で全画面表示となります。

これはどういうことかということ、ホームページを作る際の「横幅指定」とおおいに関係があるということです。現段階で完成している前田さんのホームページをブラウザで表示させ、その横幅を狭くしたり広げたりするとページ内のテキストはブラウザの幅に合わせて自動改行します。

読めれば良い、というレベルの場合はこれでも良いのですが、レイアウトを崩したくない場合には table を使用します。table とは「表」の事で、様々なテキストを表で囲んでしまい、枠の中に表示させ、テキストを固定することによってブラウザレベルで改行されることのないようにする手法として使えます。また、物理的な表（カレンダーや予定表等）を作ることが出来ます。

table には tr td というタグを必ず組み合わせる必要が有ります。

```
table tr td
```

枠内のテキスト

```
/td /tr /table
```

といった具合です。テーブルは一つでもタグが抜けてしまうと正しく表示されない場合がありますので

作成の際は注意してください。

`table tr td` とともに `width` という命令を使い、横幅を設定する事が出来ます。さらに `table` には、`border` という命令文で枠の幅を指定できる機能があります。

```
table border = 0 width = 500
```

とすると、ホームページ内のテキストは 500 ピクセル以上横に広がることはありません。500 ピクセルで自動的に改行表示されるために小さなモニタで表示させても横にスクロールする必要がない、という事です。フレームを使ったホームページは一つのブラウザを分割して複数の `html` を表示させる訳ですから、当然一つあたりの `html` の表示可能面積は狭くなります。ですから `table` を使うことで、特に横方向へのスクロールをなくし、同時にレイアウトも固定させる事によって、小さなモニタ（低い解像度のモニタ）でも良好な閲覧を提供する事が出来る様になります。

最大幅は 550 程度で

モニタの解像度で触れましたが、現在インターネットにつながっている端末の解像度は横幅 512 から始まっています。しかしながらこういったモニタ環境で使い続けるユーザは減ってきていることも確かです。windows や Mac がサポートする解像度で一番低い物が現時点で 640×480 になっています。

さらに、お客様に対してホームページのプレビューをお見せする場合など、A4 用紙縦で印刷が可能な状態で作ることは非常に重要で、一般の方がホームページの印刷を行う場合にも応用できます。A4 用紙縦に印刷できる限界値が 550 である、という意味です。（プリンタにより誤差有り）

ホームページの出力は多くのビジネスの現場で行われていることから、企業にとっては A4 縦のビジネス文書に対応していることは重要です。

`table` を作る練習で一番効果的なのはカレンダー作りです。カレンダーにはテーブルを自由自在に操る全ての要素が含まれていますので様々なパターンのカレンダーを作ってみましょう。

カレンダーは基本的に 5 週間 7 曜日ですから

横に七つの枠

縦に五つの枠

を作成し、それらを均等配分する必要が有ります。それに、この月は何月、という情報をいれるとすれば縦は六つの枠が必要ですね。

```
table tr td 数字 /td td 数字 /td td 数字 /td td 数字 /td  
td 数字 /td td 数字 /td td 数字 /td /tr に続く
```

ここまでが七曜日の入れ方です。

一行に枠を複数設ける際は `td xxx /td td xxx...`という具合に `td` タグでくくります。
これを改行する際に初めて `/tr` という、`tr` を閉じるタグを使用し、次の行でこれを繰り返しま
す。

続き `tr td 数字 /td td 数字 /td td 数字 /td td 数字 /td td 数
字 /td td 数字 /td td 数字 /td /tr` に続く

これが二行目。

続き `tr td 数字 /td td 数字 /td td 数字 /td td 数字 /td td 数
字 /td td 数字 /td td 数字 /td /tr` に続く

これが三行目。

続き `tr td 数字 /td td 数字 /td td 数字 /td td 数字 /td td 数
字 /td td 数字 /td td 数字 /td /tr` に続く

続き `tr td 数字 /td td 数字 /td td 数字 /td td 数字 /td td 数
字 /td td 数字 /td td 数字 /td /tr`

ときて、`/table`

で締めくくる。というのが基本形になります。

`table` には、以下の様なタグを追加する事が出来ます。

ALIGN

テーブルの位置（水平方向）の指示に使います。LEFT / CENTER / RIGHT の三種類があり、
デフォルトは LEFT です。

WIDHT

テーブルのサイズ（横幅）の指定に使われ、ピクセル（Pixel）で指示する方法とテーブルが入
るスペースに対しての割合で指示するパーセンテージを入れる方法の二つがあります。

Example:

TABLE WIDTH = 80

テーブルは 80pixels のサイズ（横幅）で作られます。この場合ブラウザの画面サイズに関
係なくいつもテーブルは 80pixels です。

Example:

```
TABLE WIDTH = " 80% "
```

テーブルが入るスペースに対して80%の大きさをでテーブルが作られます。この場合はブラウザの画面サイズに合わせてテーブルの表示のサイズ(横幅)も変わります。(クオテーション・マーク「 ” 」を忘れないように。)

BORDER

テーブルに枠つける際に使われます。この枠はテーブルの外枠の事です。

最初に見たこのページのテーブルでは BORDER = 5 を使っています。単位はピクセル (Pixel) です。セルとセルの間の枠は通常は 1 pixel で表示されます。この枠のサイズは次の CELLSPACING でコントロールすることが出来ます。

CELLSPACING

セルとセルの間隔を指定する際に使われます。単位はピクセル (pixel) です。

CELLPADDING

セルに入るデータとセルのボーダーとの間隔を指定する際に使われます。

例えば、

CELLSPACING = 10 とした場合は、データ (テキスト) の回りに 10 ピクセルのスペースが設定されます。

これらの装飾タグを使ってできたカレンダーは以下の通りです。

```
html title 2, 3月 / title
body bgcolor = "#FFFFFF"
center

table border = "1" cellpadding = "2"

!-- カレンダー枠頭--
tr
td align = "center" colspan = "7" bgcolor = "#dcdcdc"
font size = "2" color = "0099" 1998年2月 / font
font size = "1" color = "#cc00ff" 休日 / font
font size = "1" color = "0099"のお知らせ / font / td

td width = "10" / td
```

```
td align = "center" colspan = "7" bgcolor = "#dcdcdc"
font size = "2"color = "0099" 1998 年 3 月 / font
font size = "1"color = "#cc00ff" 休日 / font
font size = "1"color = "0099" のお知らせ / font / td
/ tr
```

!-- カレンダー曜日頭--

```
tr
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
日 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
月 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
火 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
水 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
木 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
金 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
土 / font / td
td / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
日 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
月 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
火 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
水 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
木 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
```

```

金 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#f5f5f5" width = "18" font size = "1"
土 / font / td
/ tr

```

!-- カレンダー第一週 --

```

tr
!-- 98.02--
td align = "center" bgcolor = "#ffa0c0" font size = "1" 1 / font / td
td align = "center" font size = "1" 2 / font / td
td align = "center" font size = "1" 3 / font / td
td align = "center" font size = "1" 4 / font / td
td align = "center" font size = "1" 5 / font / td
td align = "center" font size = "1" 6 / font / td
td align = "center" font size = "1" 7 / font / td

td / td

```

!-- 98.03--

```

td align = "center" bgcolor = "#ffa0c0" font size = "1" 1 / font / td
td align = "center" font size = "1" 2 / font / td
td align = "center" font size = "1" 3 / font / td
td align = "center" font size = "1" 4 / font / td
td align = "center" font size = "1" 5 / font / td
td align = "center" font size = "1" 6 / font / td
td align = "center" font size = "1" 7 / font / td

/ tr

```

!-- カレンダー第二週 --

```

tr
!--98.02--
td align = "center" bgcolor = "#ffa0c0" font size = "1" 8 / font / td
td align = "center" font size = "1" 9 / font / td
td align = "center" font size = "1" 10 / font / td

```

```
td align = "center" font size = "1" 11 / font / td
td align = "center" font size = "1" 12 / font / td
td align = "center" font size = "1" 13 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#ffcb6" font size = "1" 14 / font / td

td / td
```

!-- 98.03--

```
td align = "center" bgcolor = "#ffa0c0" font size = "1" 8 / font / td
td align = "center" font size = "1" 9 / font / td
td align = "center" font size = "1" 10 / font / td
td align = "center" font size = "1" 11 / font / td
td align = "center" font size = "1" 12 / font / td
td align = "center" font size = "1" 13 / font / td
td align = "center" font size = "1" 14 / font / td

/ tr
```

!-- カレンダー第三週 --

tr

!--98.02--

```
td align = "center" bgcolor = "#ffcb6" font size = "1" 15 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#ffcb6" font size = "1" 16 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#ffcb6" font size = "1" 17 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#ffcb6" font size = "1" 18 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#ffcb6" font size = "1" 19 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#ffcb6" font size = "1" 20 / font / td
td align = "center" bgcolor = "#ffcb6" font size = "1" 21 / font / td

td / td
```

!-- 98.03--

```
td align = "center" bgcolor = "#ffa0c0" font size = "1" 15 / font / td
td align = "center" font size = "1" 16 / font / td
td align = "center" font size = "1" 17 / font / td
td align = "center" font size = "1" 18 / font / td
```

```
td align = "center"    font size = "1"    19    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    20    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    21    / font    / td
```

```
/ tr
```

```
!-- カレンダー第四週--
```

```
tr
```

```
!--98.02--
```

```
td align = "center" bgcolor = "#ffcb6"    font size = "1"    22    / font    / td
td align = "center" bgcolor = "#ffcb6"    font size = "1"    23    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    24    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    25    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    26    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    27    / font    / td
td align = "center" bgcolor = "#ffa0c0"    font size = "1"    28    / font    / td
```

```
td    / td
```

```
!--98.03--
```

```
td align = "center" bgcolor = "#ffa0c0"    font size = "1"    22    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    23    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    24    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    25    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    26    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    27    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    28    / font    / td
```

```
/ tr
```

```
!-- カレンダー第五週--
```

```
tr
```

```
!--98.02--
```

```
td align = "center"    font size = "1"    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    / font    / td
td align = "center"    font size = "1"    / font    / td
```



```

td align = "center"      font size = "1"      / font      / td
td align = "center"      font size = "1"      / font      / td
td align = "center"      font size = "1"      / font      / td
td align = "center"      font size = "1"      / font      / td

td      / td

!-- 98.03--
td align = "center" bgcolor = "#ffa0c0"      font size = "1"      29      / font      / td
td align = "center"      font size = "1"      30      / font      / td
td align = "center"      font size = "1"      31      / font      / td
td align = "center"      font size = "1"      / font      / td
td align = "center"      font size = "1"      / font      / td
td align = "center"      font size = "1"      / font      / td
td align = "center"      font size = "1"      / font      / td

/ tr
/ table
/ center
body
/ html

```

多少長くなりましたが2月3月のカレンダーを一つのテーブルにまとめて作ってあります。表示を確認して見てください。

今回はカレンダーを作って見るのと同時に全体の概要をつかんでいただけるとよいと思います。

第8回講習

原口です。大変遅くなりました。今回は参照するホームページの数が少し多くなっています。どの様なおきにどの様なテーブル処理を行うか？についての講習です。

tabletest.html を、今回どうしても見る事が出来ませんでした。

通常と違う方法でメールに添付した、あるいはソフトを代えた、または圧縮をかけた、もしくはバイナリ形式で送付した、さらには全角英数字で作ってしまった、のいずれかに該当しませんでしょうか？

添付書類は必ず「テキスト形式で送る必要があります」ファイルタイプを調べたところ「バイナリ」形

式になっていたのが原因であると思われます。一度「バイナリ」=プログラム化されたテキストは実の所認識できないのです。これはサーバーも同じで、出来上がったデータをテキスト形式にして FTP しなければ、それを HTML として認識できないのです。

という訳ですので、今回テキスト形式で再度送付して見ていただけますでしょうか。

送付が難しければメールに直接ご記入いただいても結構です。

前田さんのリクエスト

: 原口さんの作成された HP (<http://www.cojp.com/at/at/>) での main ファイルは、どこに置かれ、またどんな機能をしているのでしょうか。お教え下されば幸いです。

: ご存じのように、URL の最後が xxx.com/at/at/ という様に / (スラッシュ) で区切られている場合、ブラウザは index.html を表示するように作られています。ですから、お送りいただいている mframe の名前を index.html に変更し、現在の index.html を別の名前に変更後、frame src を使って変更した名前を mgate の中に入れる、とすることで at/at/ と同じ動きをすることになります。

もう一つの方法は、現在の index.html に a href="mframe.html" というリンクを作り、そこをクリックすることによってフレームに移行する、と言う方法です。これですと、ファイル名を変更する必要がありませんのですぐに作業が終わってしまいますが、index.html が二度表示されるので親切とは言えません。

URL を簡単に解析すると、<http://www.cojp.com/at/at/> は

http サーバーの

cojp.com という名前の付いた

at というディレクトリ「の中の」

at というディレクトリの index.html

を指しています。main ファイルというのは、どのファイルのことか今回分からなかったのですが全ての基本は frameset の記述をした index.html と、全てのファイルの中でのアンカー (リンクの a タグ) に target 指定による記述で制御されています。

また、全てのページを table タグによって横幅固定しています。これは前回お話ししたようにフレームのページで作った窓の中に html を正しく入れる事と、低解像度のモニタでも無理なく見ることが出来る様にするのが目的です。html 作成の依頼を請ける際に、サンプルを提出する場合も考えて、A4 サイズ縦の用紙サイズで印刷が出来る事も考慮しています。

今回 tabletest. html を確認できませんでしたが、テーブルに関する講習を続けたいと思います。

テーブルに関しては、<http://www.adobe.co.jp/>

アドビシステム株式会社のページで詳しい解説を見ることができますが、ここは非常に興味深いサイトですので一応目を通しておいてください。

テーブル自体の作成は非常に簡単なのですが、気を付けなければいけないことは、一つ一つの枠のサイズです。サイズ指定を正しくしないと、非常に横長のホームページになってしまいます。

<http://www.ottonet.co.jp/used/oapple.htm>

同じテーブルでも bgcolor、テーブルの位置 center 指定等で、非常に美しく表示することができます。

<http://www.cup.com/cbox/q700.html>

また、横幅のパーセント指定で見える様子は

<http://www.cojp.com/vp/>

で確認、して見てください。

それぞれのタグの違いを検証して見てください。

次に、それぞれのページのタグの違いは置いておきます。問題はそれぞれのページが「なぜそのように作られているか？」ということです。

例えば

<http://www.cup.com/cbox/>

は中古の Macintosh を扱うオンラインショップですが、ターゲットとなる客層は非常にせまいと考えられます。Windows がシェアを拡大している中での MacOS で、しかもスペックの古いものばかりを扱っています。

しかしながらこれらのハードウェアは発売当時 100 万円以上したもので、古い車を所有するような喜びと似た感覚があります。そういう一種コレクターズアイテムであるがゆえに、古い Macintosh を 2 台 3 台所有している人がメインの訪問者になります。

ですから古い機種でも見られる様な工夫が必要です。ブラウザの大きさ（横幅）を自由に変えながらどの様な表示になるか確認して見てください。これなら小さいモニタを使って表示させても両サイドにはみ出すことはないと考えて作っています。

<http://www.indis.co.jp/am2/aoki/lab/table.html>

では bgcolor を使ってイラストを描いておられます。グラフィックの表示は通常 `img src = ...` というタグを使用しますが、こういったことも出来るという参考としてご覧ください。

<http://www.kt.rim.or.jp/~hide-510/index.html>

このサイトは効果的にテーブルの枠のサイズを調整して目立たせたいコメントを囲むことによってホームページを演出しています。漫画等の「吹き出し」同様の効果を狙ったものです。

<http://www.infobears.or.jp/dc/>

では、テーブルを大きく区切って「リンクボタン」「トピックの説明」「テキスト」という具合に効果別、目的別に分けて使っています。

この様に、どのような目的で、誰をターゲットにするかによって、テーブルやフレームの使い方を変えていくことが非常に重要なのです。

上記を参考にしながら、ホームページをテーブル化して見てください。

どのようなテーブルが効果的なのか？というのを探るのがポイントです。

さらに、注意してご覧いただきたいことは、それぞれのホームページで使われている文章です。何を魅力的に見せたいのか、どういった作風が適しているのか、想像を飛躍させてください。

このようにして「ビジネスのホームページ」は作られています。

第9回講習

まず、前回お送りいただいたファイルですが、こちらにお送りいただく前に動作確認されていますか？
全ての target 指定が間違っています。

target = xxx には、必ず index.html でご自身が定義された frameset の「name」を反映させなければいけません。

```
frame src = "mgate.html" border = "0" name = "main" marginwidth = "5" marginheight = "5" noresize
```

と指定し、mgate.html が main という名前の窓に表示されます。

では、この mgate.html をもう一度見て見ると

```
a href = "Content / hobby. html" target = "index. html"
```

```
a href = "Content / concept. html" target = "index. html"
```

等というように Content というディレクトリはデータを受け取った時点では存在していませんし、target の指定先が main になっていないために、全てのリンクが死んでいます。クライアントにホームページのデータを納品する際は、ローカルで完全に完結するものでなくてはなりません。(他のホームページのリンクなどは別です)

今後、仕事が発生し納品する際にはローカルディスクで厳重なテストを重ねてください。このクオリティをどこまで保てるかが一番大切な要素になります。

- ・クライアントに納品する際に送付しないディレクトリをリンクとして使わない
- ・動作確認はまず自分で行う

これは最低限行わなければならないものです。

Content / xxx. html というリンクは

mgate. html の一つ下の Content というディレクトリの中の xxx. html という意味ですから全てのリンク a href に対し Content / xxx が入るというのは完全に矛盾しています。今回の html はディレクトリを上下させる理由はありませんので、全ての html を index. html と同一ディレクトリに置いておかなければいけません。

Content / という表示を削除してください。

それから最初にお話しさせていただいたと思いますが

```
a href = "Content / personal. html" target = "index. html" 名前を始めとする個人情報 / a
```

をご紹介します (レイアウト中)

この半角カナはホームページのコンテンツでは絶対に使用してはいけません。日本語は必ず全角を使ってください。全体の構成については非常にすっきりとまとまったものになっています。

タグの並びもきれいです。

それぞれのタグの特性や役割については HTML 解説書籍などで学ぶ事が出来ます、HTML の仕様も日々新しくなっていますので、www.w3c.org 等で情報を得ておくことも必要です。

ホームページ制作の仕事を請け負う際に最も大切なのは、企画力といっても過言ではありません。クライアントから新規の依頼を請ける場合、99%「こうして貰いたい」という具体的な計画は何もありません。ですから、制作側がインターネットの環境や現状を良く把握し、業種ごとのホームページ構築の主流や「はやりすたり」を知っておく必要があります。

また、その業種が物販を行うのか、何かを告知したいのか、情報を提供したいのか収集したいのかといった細かいニーズを捉えていく必要もあります。特に重要なのが、ニーズのしぼり込みです。ホームページは決して万能ではなく実は非常に限られた狭い市場であることをまず認識しなければなりません。ですからマーケティングの手法としては、マス媒体（テレビラジオ等）とは全く別ものです。

現状では一つのクライアントが提供する「総合的なサイト」というカテゴリは存在しにくく、どれか一つのニーズに特化しなければ、その殆どが成り立たないと言っても過言ではありません。これからのホームページ制作者はそういったプランニングとプレゼンテーション技術が要求されることとなります。

ここ数年以内に HTML 制作業は衰退の一途をたどる感は禁じ得ません。タグを直接記述する作業も低下傾向にあります。それに代わり、どういったウェブサイトが成功するのかといったコンサルティングと成功するウェブサイト構築に関するノウハウが要求されています。

一番の近道は多くのヒットサイトの制作者達と接することです。

直接会う必要はなく、どんどんメールを送って問い合わせ見てください。返事を期待する必要はありません。貰えればラッキーと考えるべきです。そして、まず自身の趣味に関する徹底的に詳しいサイトを構築してみるというのも有効な手段です。

非常に労力がいるますが、ヒットするサイトとは何たるかを知る有効な手段となるはずで

注意すべき事は既存の雑誌などに紹介された、といったような事を謳っているサイトや、それを紹介している雑誌に踊らされないことです。万人をターゲットにすべきではありません。性別・年代・業種・指向・嗜好をより細かく分類し、よりせまい分野を開拓してみてください。そこには必ずニーズがあります。

万人受けするサイトの構築は大手のプロダクションや広告代理店にかなう訳もなく、あらばかりが目立つサイトになる危険が非常に大きいからです。

ホームページ同様、制作者も適材適所なのです。

また、今回、画像に関する講習を行わなかったのは私自身が画像処理において Macintosh を利用している事、ホームページ用の素材は印刷に比べ作成が容易な事、デザインはもとより小さい容量で完結させるといった種類のものであることから、「よりソフトウェアレベルの」話になってしまう事（つまり、最新版のソフトを追うだけで必要にして十分の出力が得られる）等の理由によります。

決して HTML という技術に囚われることだけは避けていただきたいと考えています。ホームページは「まずコンテンツありき」です。現時点では書籍や雑誌といったメディアが少し進化した、というレベルのもので

す。ですからニーズを捉え、取材する能力と、それを文章化する技術の方が HTML よりも重要なのです。

windows に含まれるビジネスアプリケーションを起動して、地域の企業に向けてのホームページ制作に関するプレゼンテーション資料を作ってみてください、紙の上で通る企画はウェブで通用するとは限りませんが、一つの企業が紙によって動かされるのは事実であり、その紙を作ることが出来る人間がウェブ上には少ないのです。これがプレゼンテーション能力を向上させるための近道です。

物理的作業の手順としては

- ・データを収集
- ・目的に沿ったテキストを作成
- ・セクションごとに分割
- ・項目別に分類
- ・テキストを証明するデータを表やグラフで作成
- ・結果を抽出
- ・リスクを想定
- ・打開策を提案
- ・人的コスト、時間的コスト、金額コストを算出
- ・目次に沿ってレイアウト

です。

ホームページの制作も最後の結果を HTML で抽出し、レイアウトするという作業に置き換えるだけの事なのです。レイアウトに関しては A3 程度の紙やホワイトボードでシュミレーションを作ってみるのも良いでしょう。ホームページでは

<http://www.radius.com/SiteMap.html>

や、

<http://www.apple.co.jp/find.html>

また、書籍などでは映画制作に用いられるストーリーボード概論について書かれたものを参考にされるとよいかと思えます。

どの様にストーリーを展開していくかということをビジュアルによって明確にしていくことでそれぞれのコンテンツのリンクが一層明確になります。

校正の際のメールでのやり取り

クライアントはホームページのプレビューを提案した段階で必ず校正を出します。その際非常にこと細かに校正は出されるはずで

例えば

1. xxx をこうこうしてください。
2. ccc は不要です。
3. iii は ttt に変更してください。

というような羅列が 10 も 20 も寄せられます。そうしたことに對し

1. xxx をこうこうしてください。

作業完了いたしました。完了後のプレビューは <http://rrr.rrr.rr.rr> でご覧いただけます。

2. ccc は不要です。

上記作業完了しました。以下を削除いたしました。

cccccccccccccccccccccccccccccccc

3. iii は ttt に変更してください。

作業完了いたしました。hhttp://eee/ee で

iii-- ttt といたしました。

という風に、一つの項目を完全にクリアにしてから次へ進むことをおすすめします。校正は 100 万円の制作に對し 1000 以上出る可能性があります。

また、制作段階において作業が未定の場合なども日常的にあることです。こういった場合は

eee の件に對しての策として 1 と 2 から取捨選択をすすめる旨の文章とそれに基づく理由を提出することも有効です。

最後は HTML 講習の具体的な内容と、少し違うものになりましたが、一番重要な部分であるともいえます。是非ご活躍される事をお祈りしています。様々なご質問や疑問が新たに発生することと思います。即日回答は難しい場合もありますが、どうぞご遠慮なくメールを頂ければと思います。

資料2 VCOM 97 報告書（抜粋）

1 VCOM とは何か

VCOM は、インターネットを媒介とした、ネットワーク・コミュニティ作りの実証研究プロジェクトで、慶応大学の金子郁容研究室が中心となって実施されている。VCOM の基本コンセプトは以下の 3 つである。

- ・ ボランタリーなネットワーク
- ・ 社会性の高い情報の共有
- ・ 市民の自発的参加による新しい社会システムの構築

VCOM はボランタリーな活動を基本とするが、NPO が収益活動をしたり、企業が直接的な営利活動以外の目的でボランタリーな活動をすることは VCOM の主旨に沿ったことである。VCOM において許容されている NOP ないし企業によるボランタリーな活動とはなにかについては、VCOM AUP（Accepted Use Policy）が定められ、そのポリシーが公開されている（VCOM ホームページ参照）。VCOM は慶応大学 SFC 研究コンソーシアムの一つとして参加企業や自治体の支援を受けている。VCOM の学術研究は、慶応大学の「創造的デジタルメディアの基礎と応用に関する研究」として行われている。VCOM の社会実験活動の一部は、慶応大学と野村総合研究所の非営利共同事業である CCCI のフラッグシッププロジェクトとして実施されている。

VCOM は 1995 年 5 月に開始された。これまでの VCOM 活動については、VCOM95 と VCOM96 報告書に述べられている。

VCOM は大学の研究グループを核に、個人参加のボランティア、NGO・NPO、自治体、民間研究所、社会福祉法人など民間非営利法人、企業など、幅広い参加者の協力を得て存在している。組織体としての VCOM の主な構成要素は、基本方針の意思決定機関である運営委員会、運営委員会から依頼されてシステム運用やシステム開発に携わるシステム運用チーム、実際のネットワーク・コミュニティ活動を推進している VCOM ケースプロジェクト実施グループである。しかし、VCOM を支えているのはこれらの構成要素の正式メンバーだけでは決してない。それぞれの目的をもってさまざまな形で VCOM にかかわる個人や組織が多く存在する。

「チャレンジド・ワーキング・フォーラム（CWF）」というケースプロジェクトを例にとって、その多様な協力関係を概観しよう。CWF は正式には数人の有志によって実施されているが、実際の活動にあた

っては、労働省の外郭団体である日本障害者雇用促進協会、任意団体のプロップ・シテーション、社会福祉法人である東京コロニーなどさまざまなタイプの組織・団体と提携したり、それらから協力を得たりしている。また、日経連障害者雇用相談室スタッフの個人参加者や企業人事担当部署からの個人参加者、CWF の中心であるジョブマッチングシステムの技術支援をするために協力してくれている富士通や日本オラクルからの 10 名あまりのボランティアもいる。さらに、CWF が運営している障害者就労についてのオープンな情報交換の会議室には 100 人以上の参加者があり、ジョブマッチングシステムへの登録は数百人にのぼる。それぞれのケースプロジェクトは、このように、正式メンバー以外にもさまざまな団体や個人がいろいろな形で出入りするネットワーク・コミュニティになっている。

運営委員会は基本ビジョンや活動の方向性についての大枠を定めるのみであり、10 あまりのケースプロジェクトに対応するネットワーク・コミュニティは、VCOM の基本コンセプトとインターネット・リソースを共有しつつ、具体的な活動をそれぞれの目的と方針をもって実施している。全体として VCOM は、ネットワーク・コミュニティが入れ子になった自律・分散複合体を形成しているといえる。

VCOM の「規模」をインターネットの利用という観点からいくつかの指標で見よう。VCOM は企業などの通常のヒエラルキー組織ではなく、上記したように、主な構成要素の正式メンバー以外の参加者も数多く存在するので、誰をもって VCOM 参加者であるかを定めることは難しい。VCOM システムに個人アカウントをもち、PPP でアクセスする利用者数は約 130 人いる。VCOM の運営員、システム運用チームメンバー、それぞれのケースプロジェクトに正式に参加しているメンバーは総勢約 300 人である。これらの数より実質的なのは、VCOM におけるメーリングリスト（ML）の利用者数であろう。VCOM には全部で約 130 の ML があり、ML 登録者は延べ 2,500 人である。一人がいくつかの ML に属している場合もあるので、利用者数は、数百人～千人程度であろう。VCOM の ML おけるトラフィックは 1 日あたり総計 50 から 150 通で、多いときには 510 通以上のメールが飛びかう。また VCOM における WWW のアーカイブは全部で 700M 程度あり、総ファイル数は 46,150、うち html ファイルは 5,400 である。VCOM への 1 日あたりのファイルアクセス数は、3,000～5,400 である。

要約すると、VCOM の実質的参加者は千人程度で、VCOM ホームページファイルには毎月約数万から十数万のアクセスがあると見込まれる。

VCOM は、このように、企業、大学、研究所、自治体ではない、ボランタリーな研究グループが実施しているインターネットサイトとしては、きわめて活発な活動を実施しているといえる。このようなネットワーク・コミュニティによるインターネットサイトは、VCOM が発足した 1995 年には類を見ないものであったが、現在では全国に出現している。VCOM はそのようなボランタリーなサイトの一つの先駆けとなったといえよう。

もちろん、VCOM の存在価値は定量的側面だけで測れるものではない。藤沢市との共同事業である「電縁都市ふじさわ」が実施されている。日本の NPO サイトとしてはもっともたくさんの女性関連情報

があるという定評がある「WOM (Women's Online Media)」は 1998 年度の通信白書にも紹介された。NPO 法について継続的に情報を提供する NPO による唯一のサイトであるシーズの「NPO の法的環境整備フォーラム」はマスコミや政党関係者が常に利用している。このように、VCOM は先端的で社会的なニーズの高い情報を提供するユニークなネットワーク・コミュニティを作り出し、支援するサイトとして、3年目をむかえて社会的にも定着、評価を受けている。

2 VCOM の研究活動

1997 年度の VCOM の主な研究活動は「システム運用とシステム開発」と「ケースプロジェクトの実施」に分けられる。以下ではそれぞれについて簡単に説明する。詳細は PART および PART に掲載されている。

2-1 システム運用とシステム開発

VCOM システムは、3名の主要メンバーからなるシステム運営チームが中心になって、ケースプロジェクト活動の推進についてのネットワーク・サービスの提供、日常のシステム維持や管理、トラブル時の対応、システムアップデートや増設の作業などを行っている。また、VCOM 利用者からの要望に応じて、新たなシステムサービスの開発も行う。ケースプロジェクト参加者を主な対象として VCOM 97 が提供しているシステムサービスは以下のようなものである。

- ・ VCOM システムとインターネットをダイヤルアップ PPP 接続して利用するためのアカウントを作る
- ・ VCOM サーバにメーリングリストを新設する
- ・ VCOM の WWW サーバにケースプロジェクトのホームページを登録する (CGI、SSI、バーチャルホスト典用を含む)
- ・ Web-ML Conference System を利用する
- ・ 「自動応答メール」を利用する

1997 年度の VCOM におけるシステム開発の主な成果としては、VCOM Web-ML 会議室システムがある。これはメーリングリストの内容を WWW から閲覧することができ、さらに WWW から投稿もできるという便利な仕組みである。Web-ml は、VCOM の中心課題であるネットワーク・コミュニティ作りにとって重要なツールを提供するものであり、また、フリーウェアとして VCOM 以外のネットワーク・コミュニティにも利用してもらうべく準備中である。

2-2 ケースプロジェクトの実施

ケースプロジェクトとは、VCOM の目指すネットワーク・コミュニティ作りを、多様な分野で実際に推進する実験的ないし実用的なプロジェクトで、それぞれ独立の実施責任者と実施団体によって遂行

されるものである。毎年度末、ケースプロジェクトのそれぞれについて新年度に継続するかどうか協議によって決定され、また、VCOM ホームページに公開されている一定の方法によって申請があった新規ケースプロジェクトの企画については、それが VCOM の基本方針と合致するかどうか運営委員会によって審議される。ふさわしいと認められものは順次ケースプロジェクトとして追加される。

1997 年度には、以下のようなケースプロジェクトが認知され実施された。それぞれの活動内容については Part で詳しく報告する。なお、以下のうちいくつかのものは 1997 年度途中から加わったものである。

グループ A：障害者の就労とネットワーキング

Challenged Working Forum (CWF)

ジョブマッチングシステムの運営。障害者の雇用に関する意見交換やコンサルティングを行うための場の設置。障害者就労関連情報の提供。

VCOM-CHIME

インターネット上に分散的に存在している障害者支援情報を対象とした検索・編集システムを作成する。

JD (日本障害者協議会) NET

JD は障害の種別や思想・信条の違いを越えた 69 団体が連携した組織。障害者関係の情報通信ネットワークの普及や「パソコンボランティア・ネットワーク」の普及を目指す。

グループ B：地域コミュニティの情報化

地域情報化プロジェクト

藤沢市との共同事業としてインターネットを使った地域コミュニティ作り「電縁都市ふじさわ」の実施を行う。

地方公共団体行財政情報公開プロジェクト

インターネットを通じて地方公共団体の財政運営状況および福祉関連施策の実施状況についての情報公開促進をし、市民団体などにマクロ情報を使いやすいかたちで提供する。

グループ C：女性関連情報

WOM (Women's Online Media)

社会人女性メンバーを中心にしたグループがホームページによる保育所やイベントなど女性関連情報を提供し、子育てや労働などのテーマによる分科会活動の報告をする。

Cyber-Forum 環境・女性・情報

国連、東京都、都市と市民の国際協力世界会議実行委員会の共催で 1998 年の 5 月に開催される「都市と市民の国際協力世界会議 (エコ・パートナーシップ東京会議)」に関連してインターネット上での会議を開催する。

グループ D : NGO・NPO

GOOD (Guide Operated Online to Doing GOOD)

個人が社会変革のために何を成しうるかについてインターネット上のガイドブックの作成を目的とする。環境エリア、投資・消費・仕事のエリアについて力をいれている。

NPO の法的環境整備フォーラム

シーズ(C"s)=市民活動を支える制度を作る会と VCOM とのこの共同プロジェクトでは、「NPO 法案」についての情報提供を行う。

グループ E : その他の情報コミュニティ

市民と音楽

音楽を通じた市民活動を実施している NPO である日本フィルオーケストラの公演の内容や日程の紹介や意見交換をする。


電子大使館ネットワーク

在日大使館ホームページのリンク集。

資料3 VCOM ホームページのトップページ

(<http://www.vcom.or.jp/>)

English here



障害者の就労とネットワーキング

ジョブマッチング情報広場
CWF-OPEN
CWF-CONSUL
CHIME's SQUARE -障害者情報インデックス-
就労関連情報

女性関連情報

WOM
WOM 全国保育所情報
WOM 女性情報リンク集
サイバー・フォーラム:環境・女性・情報

地域コミュニティの情報化

藤沢市の情報化
早稲田いのちのまちづくり
東京都の行財政情報
行政経営インターネットフォーラム
生活都市東京を考える会
淡路島めぐり

NGO/NPO

GOOD 環境ガイド
GOOD 投資・消費・仕事
NPO法制度(シーズ)

お知らせ

※

[VCOMについて](#)

※

[VCOMサーチエンジン](#)

※

[VCOMの会議室](#)

※

[VCOMシステムガイド](#)

※

[お問い合わせ](#)
recpt@vcom.or.jp

その他

市民と音楽
在日大使館リンク集
JD-NET
災害情報会議室
JAFSA
SIETAR

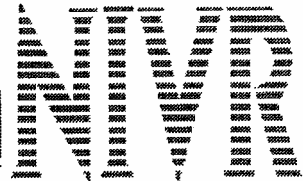
VCOMは慶応大学SFC研究コンソーシアムのひとつとして参加企業や自治体の支援を受けて実施されています。VCOMの学術研究は慶応大学の「創造的デジタルメディアの基礎と応用に関する研究」と連動しています。VCOMの社会実験活動の一部は、慶応大学と野村総合研究所の非営利共同事業であるCCCIのフラッグシッププロジェクトとして実施されています。

(C) Copyright 1997 VCOM. All rights reserved
Site designed by FARM, 1997

資料4 VCOM ホームページ中の CWF-CONSUL 紹介ページ

障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION



在宅勤務者(障害者)の労働問題に係る コンサルテーションのための メーリングリストについて

- はじめに
- 趣旨
- メーリングリストの概要
- 連絡先

はじめに

このメーリングリストはVCOMのケースプロジェクトであるCWF(Challenged Working Forum)の一環として行われています。なお、CWFは慶応義塾大学と野村総合研究所の共同非営利事業であるCCCIのフラッグシッププロジェクトである、CTTH(Cyber To The Home)プロジェクトとの共同研究として実施されています。

趣旨

最近のインターネット関連技術の発展により、重度身体障害者の在宅勤務の形での就労に大きな注目が集まっています。また、このような流れの中で企業、障害者ともに在宅勤務に対する関心が高まりつつあります。しかしながら、このような状況にあるにもかかわらずその進展は社会の期待に沿うものとなっているとは言い難い状況です。これには、いくつかの原因が考えられますが、その中でも在宅勤務者を雇い入れたいと考えている企業と在宅で就労したいと考えている障害者をつなぐパイプ役となる機能が発達していないのが重要な問題になっています。要は「在宅勤務」への志向はあるが、それを実現するための第一歩が踏み出せずにいるのが現状です。そこで、このメーリングリストにおいては、具体的に在宅勤務に関する計画を立てていこう、あるいは在宅で就労していこうとする場合に生じる問題点に対するアドバイスをや各種の質問に対して回答していくことにより、この第一歩が踏み出せるよう支援していこうと考えています。

メーリングリストの概要

(1)メーリングリストのメンバー等

このメーリングリストについては、質問内容がプライバシーに係る問題を含む可能性があることから、相談に依るメンバーは固定しています。また、その構成員は企業の担当者、実際の在宅就労者、就労支援団体のメンバー、研究者、行政関係者等様々な分野の専門家となっています。

(2)相談者

上記のメーリングリストにおいて相談を受けることができる方は、原則として在宅勤務者又は在宅勤務を希望する障害者及び障害者の在宅勤務者を雇用(委任、委託、請負関係も含む。以下同じ)している企業、又はその雇用を予定している企業の担当者としてさせていただきます。

(3)相談内容

- ① 在宅勤務に係る労働省関連サービス(各種助成、給付サービス等)、法制度、各種サービス事業の運営状況等に対する質問及び個別案件の相談
- ② 在宅勤務に係る日本障害者雇用促進協会等民間団体の提供するサービス、各種事業に係る質問及び個別案件への対応
- ③ 在宅勤務中の者又は在宅勤務を希望する者の悩み等に対するアドバイス
- ④ 在宅勤務者に係る企業からの雇用管理等の相談への対応
- ⑤ 今後在宅勤務者を雇用しようとしている企業からの労働条件等の相談への対応
- ⑥ 技術的アドバイス

(4)相談の流れ

- ① 相談を希望者される場合は、管理者宛にメールで相談内容を通知してください。なお、管理者のアドレスは以下のとおりです。
cwf-consul@nivrjaed.or.jp
- ② 管理者は上記の通知を受けた場合には、当該相談内容が本メーリングリストのメンバーで対応可能であるか否かを判断します。
その結果、対応可能な場合には、当該相談者にその旨と次回以後の相談に係るアドレスを通知させていただきます。
また、明らかに本メーリングリストでの対応が困難な場合はその理由を明記の上その旨本人に通知させていただきます。
なお、基本的には労働面に係る相談には幅広く対応していく方針です。
- ③ 上記②のとおり、御本人への通知と併せて本メーリングリストのメンバーに対して相談内容を送付します。
以上がおおまかな流れとなっていますが、本メーリングリストは、今後の在宅勤務に係る問題点を整理していくためにも有効に活用していきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。



連絡先

日本障害者雇用促進協会 障害者職業総合センター

雇用開発研究

戸ヶ崎 文泰

〒261 千葉市美浜区若葉3-1-3
E-mail:cwf-consul@nivrjaed.or.jp



[CWFのホームページへ戻る](#)

視覚障害者その他の理由で活字のままではこの報告書を利用できない方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「点字図書」「拡大写本」等を作成することを認めます。

その際は、下記までご連絡ください。

障害者職業総合センター 企画調整室

電 話 043 - 297 - 9067

F A X 043 - 297 - 9057

なお、視覚障害者の方等で、この報告書（文書のみ）のテキストファイルをご希望されるときも、ご連絡ください。

調査研究報告書 No.35

在宅就労を中心とした障害者の就労促進に係るインターネットの活用に関する研究

編集・発行 日本障害者雇用促進協会

障害者職業総合センターC

〒261-0014 千葉市美浜区若葉3 - 1 - 3

電 話 043 - 297 - 9067

F A X 043 - 297 - 9057

発 行 日 1999年2月

印刷・製本 株式会社 正文社

The logo graphic consists of a large, stylized white arrow pointing to the right, set against a dark green background. The arrow is formed by two thick white lines that meet at a point on the left and diverge towards the right. The interior of the arrow is a light green color.

NIVR

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

I S S N 1340-5527